

浜松地域の経済動向

—平成30年1月を中心に—

景気拡大が続く。 ポスト大河ドラマの観光戦略が課題。

浜松地域の経済は、引き続き緩やかな拡大が続いている。

自動車生産は増産基調になってから1年が経過し、前年同月比の伸び率は鈍化してきたが、依然高水準の操業を維持している。

大河ドラマの放映は昨年12月で終了。

シティホテル稼働率・館山寺温泉宿泊者数とも前年水準を下回った。

大河ドラマ終了後の観光戦略が課題となっている。

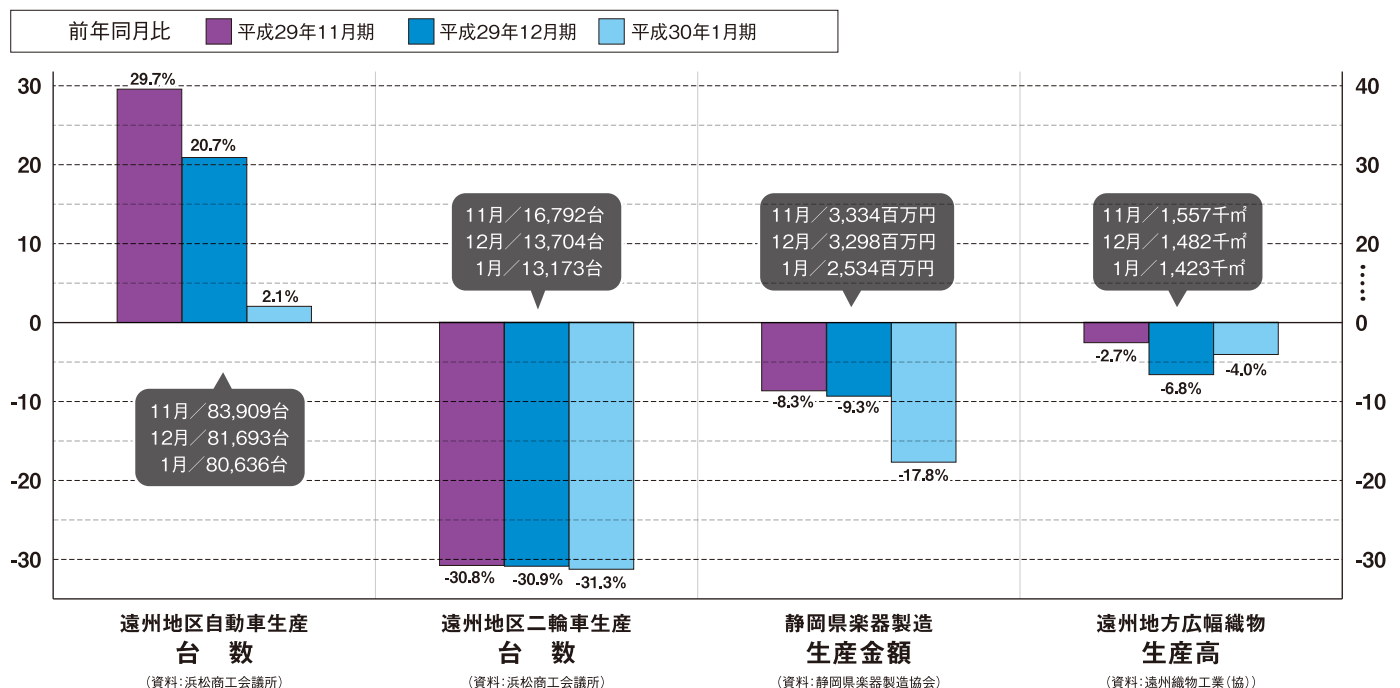
2018.

04

2018年4月発行

発行：浜松商工会議所

① 製造業〈主要経済指標〉



自動車



2018年1月における遠州地区の自動車生産台数は前年同月比2.1%増の8.0万台となった。17年1月以降、前年同月水準を常に上回り、17年は前年比2桁増の月が10カ月あった。増産基調になってから1年が経過したため、前年比の伸び率は鈍化したが、高水準の操業を維持している。

部品メーカーからは、「受注は引き続き好調」「設備を新たに導入した」といった声がきかれた。

二輪車



2018年1月における二輪車生産台数は前年同月比31.3%減の1.3万台となり、4カ月連続で前年同月水準を下回った。内需向け・輸出とも前年同月水準を下回った。特に内需向けは7カ月連続で前年比2桁減と低迷、減少率も89.5%と大きかった。

統計上では、二輪車生産台数は低迷しているが、部品メーカーからは「受注は増加傾向」「人手が足りておらず人員を募集している」といったコメントがきかれた。

楽器



2018年1月における生産金額は前年同月比17.8%減の25億円となり、8カ月連続で前年同月を下回った。分野別に1月の生産台数をみると、ピアノ、電子・電気ピアノ、電子オルガン、管楽器のいずれも前年同月水準を下回った。

中小企業からは「売り上げを維持しているものの収益性低下」「受注は減少傾向になる」など自動車や二輪車と比較すると、景況悪化を思わせるコメントが目立つようになってきた。

繊維



2018年1月の生産量は前年同月比4.0%減の1,423千㎡となり、15カ月連続して前年同月を下回った。

春夏向け衣料の生産が終盤に入った。今後は春夏向けはリビートや超短納期対応のみとなり、秋冬向け素材の生産に切り替わっていく。

浜松地域の経済動向

② 非製造業〈主要経済指標〉

運輸

2018年1月におけるタクシー乗車人員は前年同月比0.5%減の46.5万人となった。前年同月水準を下回るのは5カ月連続。

観光

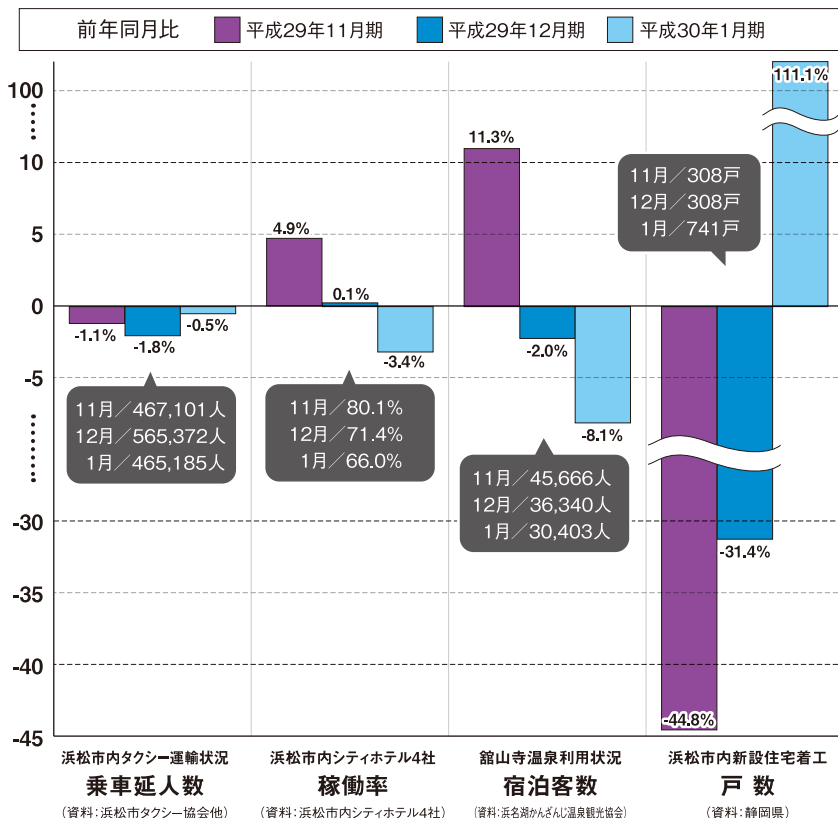
2018年1月の浜松市内シティホテル4社の稼働率は前年同月比3.4ポイント低下の66.0%となった。大河ドラマが終了したことに加え、旧正月が昨年1月から今年は2月にずれた影響で中国からのインバウンドが減少した。

2018年1月の館山寺温泉宿泊客数は前年同月比8.1%減の3.0万人となった。前年同月との比較をみると、2017年12月までは大河ドラマ効果が大きく23カ月連続で前年同月を上回っていた。しかし17年12月以降、2カ月連続で前年水準を下回って推移しており、大河ドラマ終了後の需要喚起が課題となっている。

住宅着工

2018年1月における浜松市の住宅新設着工は前年同月比111.1%増の741件となった。前年同月水準を上回るのは3カ月ぶり。着工件数が少なかった17年11～12月の反動があった模様。

内訳をみると、「持ち家」「貸家」「分譲」とも前年同月を上回ったが、特に「貸家」「分譲」の伸びが大きかった。



③ その他〈主要経済指標〉

有効求人

ハローワーク浜松管内における2018年1月の有効求人倍率は前年同月比の0.31ポイント改善の1.78となった。1.7倍台は2カ月連続でほぼ25年ぶり。全国や静岡県の倍率を上回って推移している。業種を問わず人手不足感が強くなっており、人手要因による供給制約が目立つようになってきた。

倒産企業

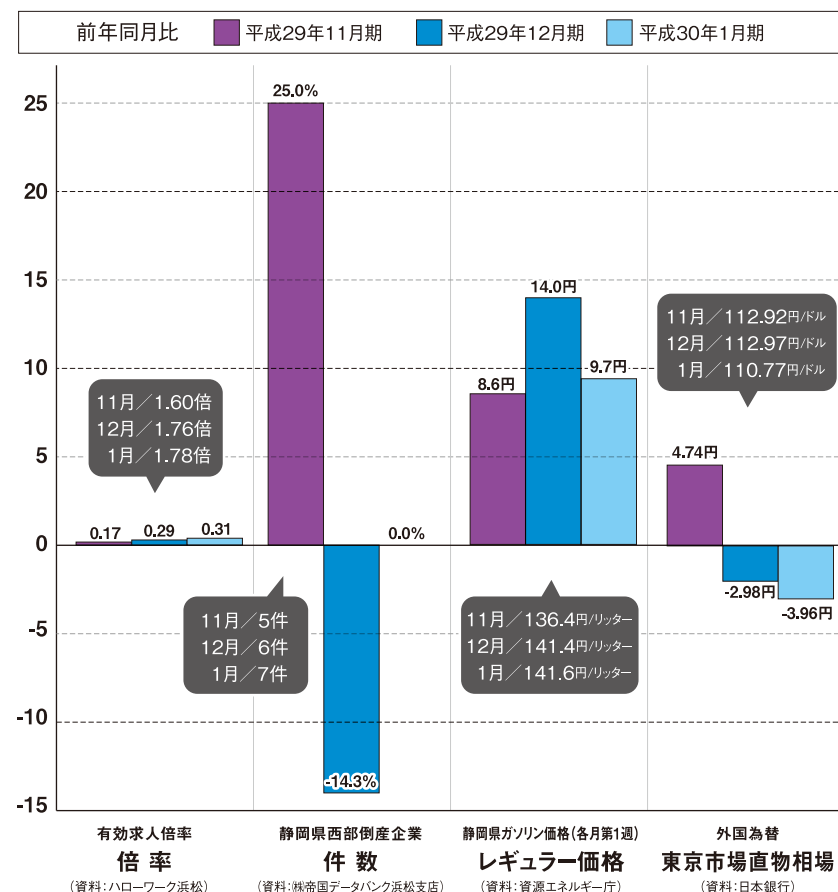
2018年1月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は7件、負債総額は7億円となった。17年1月以降の倒産件数は17年8月を除いて1桁台で推移している。

ガソリン価格

2018年1月第1週のレギュラーガソリン価格は1リットル当たり141.6円と前月から0.2円上昇した。前年同月比では9.7円上昇している。週次でみると17年11月下旬以降変動幅が小さくなっている。

外国為替

2018年1月の外国為替は1ドル110.77円となった。前年同月と比較すると3.96円の円高となっている。足元では1ドル106円前後で推移している。17年は年間を通じて変動幅の小さい1年となったが、18年に入り2月中旬以降円高が進行した。



浜松地域の経済動向

—平成30年2月を中心に—

景気拡大に一服感がみられるも、引き続き緩やかな拡大を見込む。

浜松地域の経済は、景気拡大に一服感がみられるも、引き続き緩やかな拡大が続いている。自動車生産は増産基調になってから1年が経過し、14カ月ぶりに前年水準を下回ったが、依然高水準の操業を維持している。大河ドラマの放映は昨年12月で終了。館山寺温泉は前年比2桁減と大河ドラマ効果の反動がみられるが、シティホテルはビジネス客やインバウンド需要が好調だった。

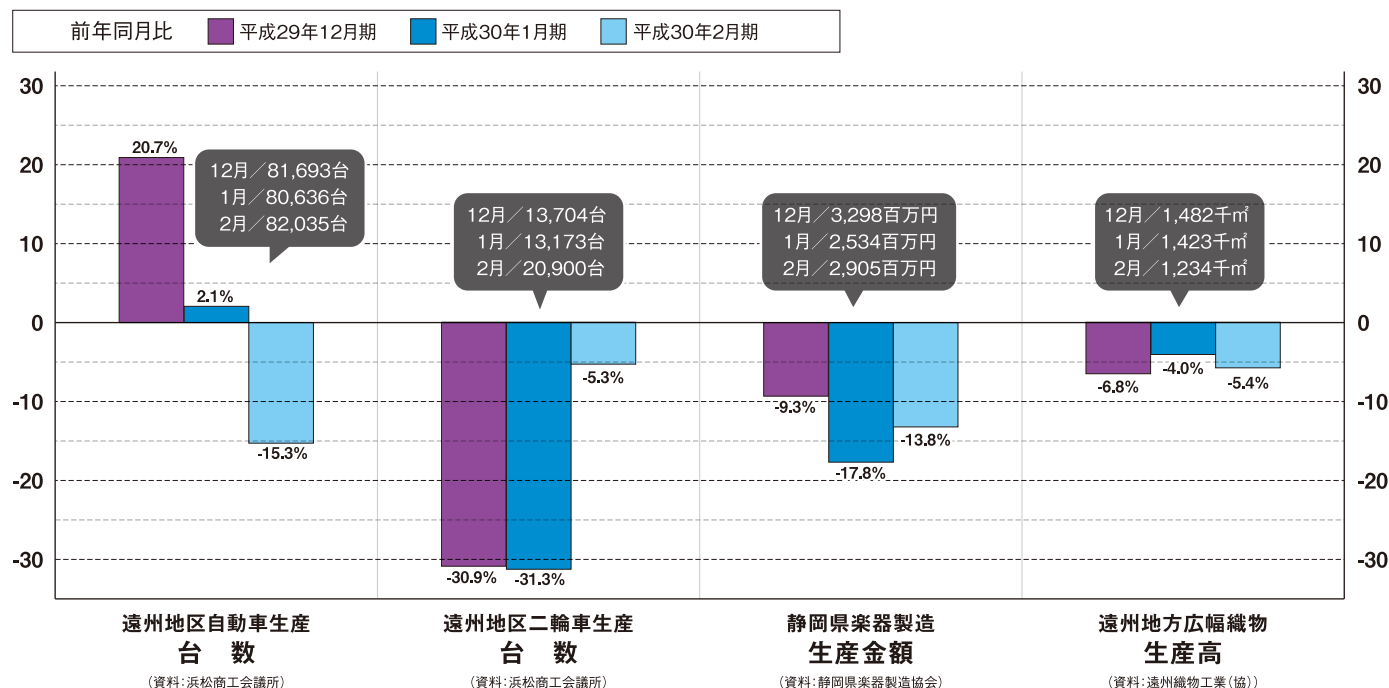
2018.

05

2018年5月発行

発行：浜松商工会議所

① 製造業〈主要経済指標〉



自動車



2018年2月における遠州地区の自動車生産台数は前年同月比15.3%減の8.2万台となった。17年1月以降、前年同月水準を常に上回り、17年は前年比2桁増の月が10カ月あった。増産基調になってから1年が経過したため、前年との対比では14カ月ぶりにマイナスとなったが、一昨年と比較すると高水準の操業が続いている。

部品メーカーからは、「受注は引き続き好調」という声が多いものの「メーカーのモデルチェンジが一巡し、売り上げは減少している」といった声もきかれた。

二輪車



2018年2月における二輪車生産台数は前年同月比5.3%減の2.0万台となり、5カ月連続で前年同月水準を下回った。輸出は5カ月ぶりに前年水準を上回ったが、内需向けは8カ月連続で前年比2桁減と低迷、減少率も79.4%と大きかった。

統計上では、二輪車生産台数は低迷しているが、部品メーカーからは「売り上げは順調」といった声や「部品が中国から国内へ帰っている」といった声がきかれた。

楽器



2018年2月における生産金額は前年同月比13.8%減の29億円となり、9カ月連続で前年同月を下回った。分野別に2月の生産台数をみると、ピアノ、電子・電気ピアノ、電子オルガン、管楽器のいずれも前年同月水準を下回った。

中小企業からは「受注は減少傾向になる」といった景況悪化を思わせるコメントが目立つようになってきた。

繊維



2018年2月の生産量は前年同月比5.4%減の1,234千㎡となり、16カ月連続して前年同月を下回った。

春夏向け衣料の生産はほぼ終了した。従来はあまりなかった麻・ウールなど綿以外の素材が増えている様子。

② 非製造業〈主要経済指標〉

運輸



2018年2月におけるタクシー乗車人員は前年同月比4.3%減の42.3万人となった。前年同月水準を下回るのは6カ月連続。大河ドラマ効果は終結。大きなイベントもなく、低迷している。特に夜間の需要が落ち込んでいる模様。

観光



2018年2月の浜松市内シティホテル4社の稼働率は前年同月比1.6ポイント上昇の80.1%となった。今年は中国の春節が2月となりインバウンドが好調だった模様。ビジネス関係も順調だった。

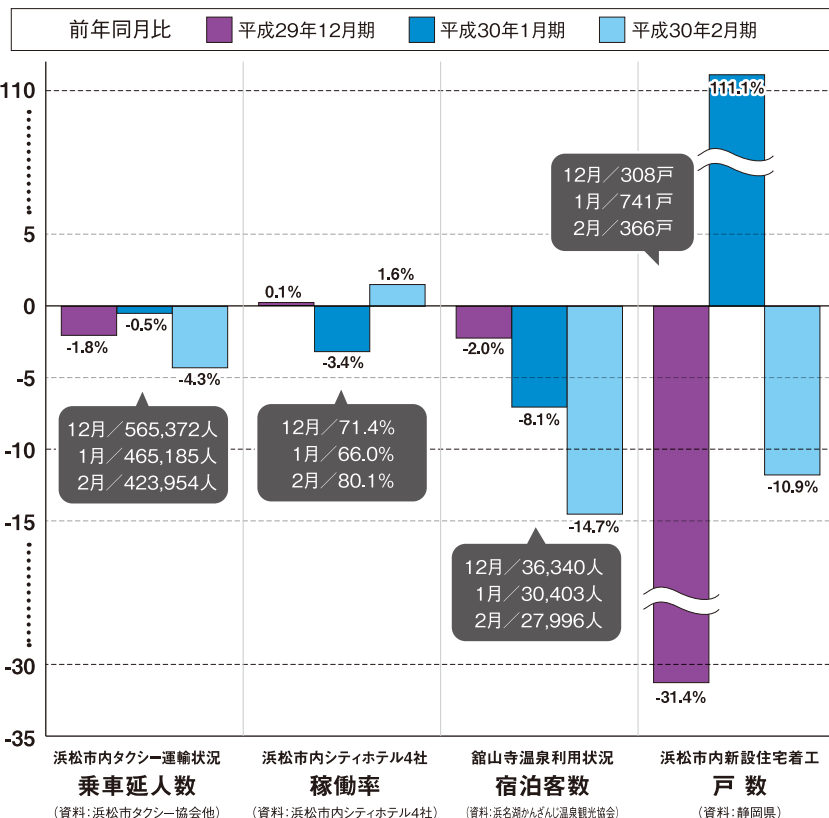
2018年2月の館山寺温泉宿泊客数は前年同月比14.7%減の2.8万人となった。前年同月との比較をみると、2017年12月までは大河ドラマ効果が大きく23カ月連続で前年同月を上回っていた。しかし17年12月以降、3カ月連続で前年水準を下回って推移、2月は前年比2桁減となった。

住宅着工



2018年2月における浜松市の住宅新設着工は前年同月比10.9%減の366件となった。前年同月水準を下回るのは2カ月ぶり。

内訳をみると、「貸家」は前年水準を上回ったが、「持家」「分譲」は前年水準を下回った。



③ その他〈主要経済指標〉

有効求人



ハローワーク浜松管内における2018年2月の有効求人倍率は前年同月比の0.27ポイント改善の1.76となった。前月比では0.02ポイント低下したが、1.7倍台は3カ月連続でほぼ25年ぶり。全国や静岡県の倍率を上回って推移している。業種を問わず人手不足感が強くなっており、人手要因による供給制約が目立つようになってきた。

倒産企業



2018年2月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は2件、負債総額は4.4億円となった。17年1月以降の倒産件数は17年8月を除いて1桁台で推移している。

ガソリン価格

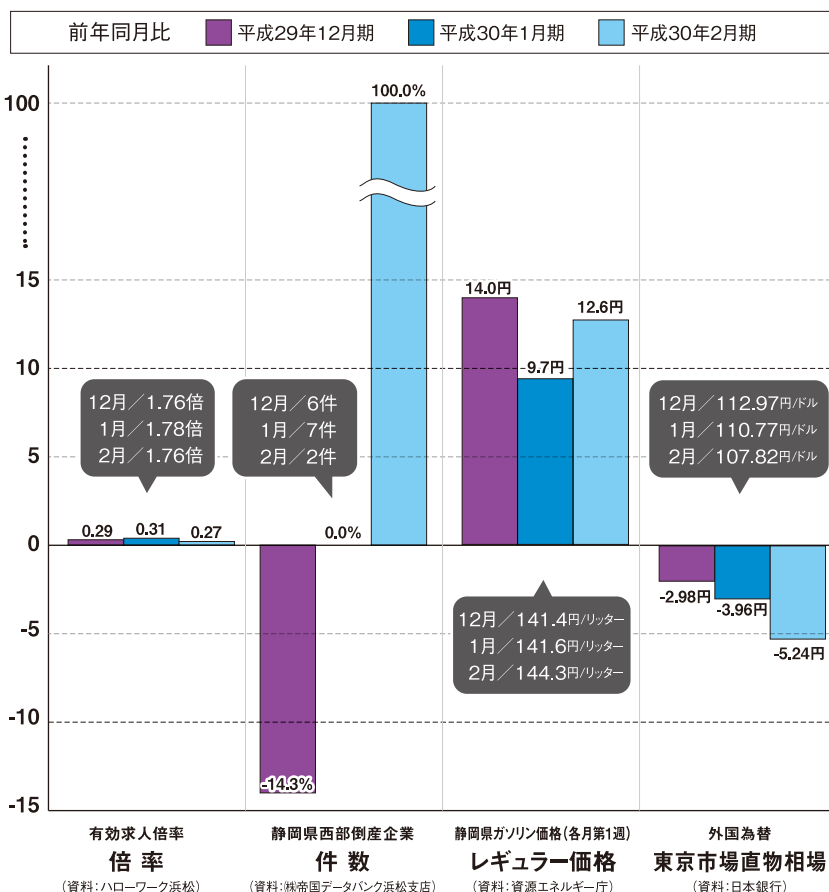


2018年2月第1週のレギュラーガソリン価格は1リットル当たり144.3円と前月から2.7円上昇した。前年同月比では12.6円上昇している。週次でみると17年11月下旬以降変動幅が小さくなっている。

外国為替



2018年2月の外国為替は1ドル107.82円となった。前年同月と比較すると5.24円の円高となっている。米国の金融政策や保護主義的な通商政策の影響もあり、2017年と比較すると円高方向で推移している。



浜松地域の経済動向

—平成30年3月を中心に—

景気拡大に一服感がみられ、回復の動きが緩やかになってきている。

自動車生産は依然高水準の操業を維持しているが、2カ月連続で前年水準を下回った。

観光面では大河ドラマ効果の反動がみられるが、

シティホテルはビジネス客やインバウンド需要が好調だった。

人手不足感が引き続き強いことに加え、ガソリン価格も高値圏で推移しており

企業収益を圧迫する要因になっている。

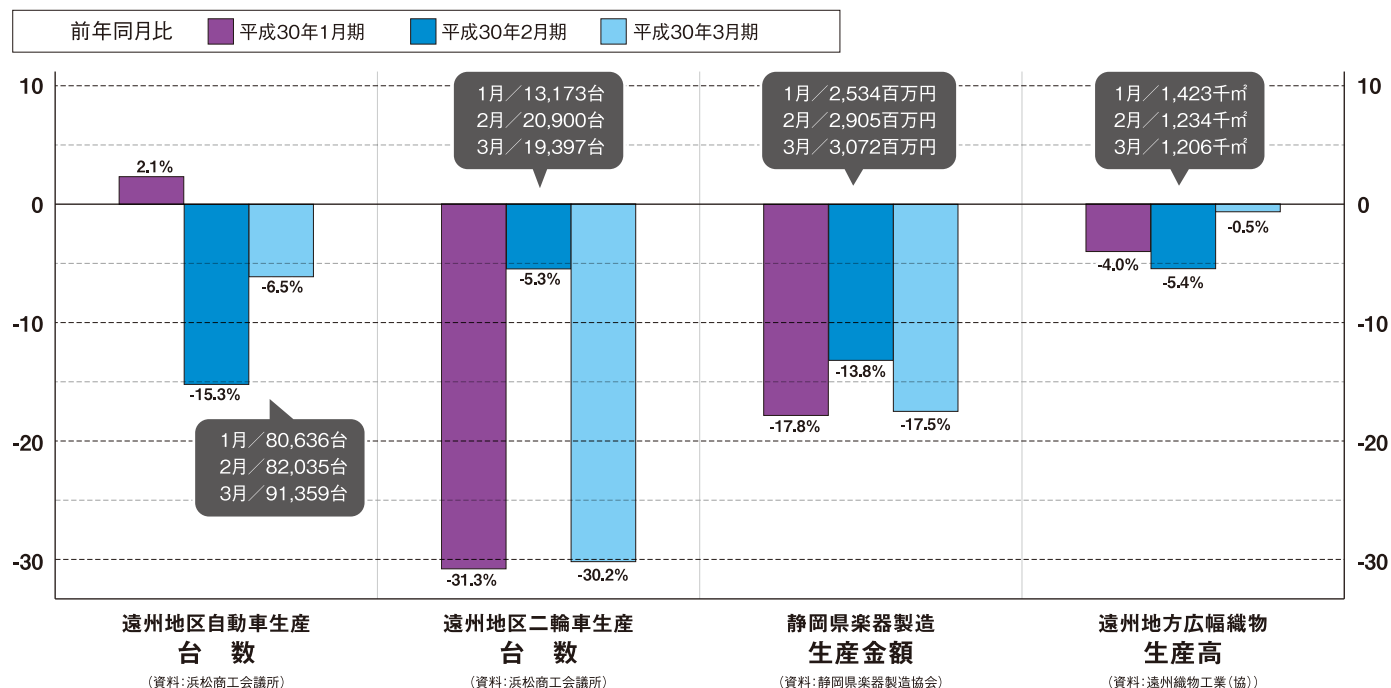
2018.

06

2018年6月発行

発行：浜松商工会議所

① 製造業〈主要経済指標〉



自動車



2018年3月における遠州地区の自動車生産台数は前年同月比6.5%減の9.1万台となった。17年1月以降、前年同月水準を常に上回り、17年は前年比2桁増の月が10カ月あった。増産基調になってから1年が経過したため、前年との対比では2カ月連続でマイナスとなったが、一昨年と比較すると高水準の操業が続いている。

部品メーカーからは、「受注増加によりキャパを超えそうだが、採用したい人材がいらない」「人手が不足している」といった人手不足に関する声が多くきかれた。

二輪車



2018年3月における二輪車生産台数は前年同月比30.2%減の1.9万台となり、6カ月連続で前年同月水準を下回った。2017年度の生産台数は下半期の減産が響き、前年度比2.6万台減の20.5万台となった。

統計上では、二輪車生産台数は低迷しているが、部品メーカーからは「新機種により、4月以降受注が増加する見通しである」といった声や「アメリカ現地法人で受注が獲得できた」といった声がきかれた。

楽器



2018年3月における生産金額は前年同月比17.5%減の30億円となり、3カ月連続で前年同月を下回った。分野別に3月の生産台数をみると、ピアノ、電子・電気ピアノは前年同月比プラス、電子オルガン、管楽器は前年同月比マイナスとなった。ピアノの内訳をみると、アップライトピアノは減少したが、グランドピアノが堅調だった。

中小企業からは「材料の価格が上がっている」「人材の確保が困難である」といった声がきかれた。

繊維



2018年3月の生産量は前年同月比0.5%減の1,206千㎡となり、17カ月連続して前年同月を下回った。

今秋冬向けの生産が始まり、当産地の生産数量は減少傾向となる。

2017年度の前年度比586千㎡減の14,924千㎡となった。

② 非製造業〈主要経済指標〉

運輸



2018年3月におけるタクシー乗車人員は前年同月比4.8%減の51.5万人となった。前年同月水準を下回るのは7カ月連続。大河ドラマ放映終了以降、大きなイベントもなく、低迷している。特に夜間の需要が落ち込んでいる模様。

観光



2018年3月の浜松市内シティホテル4社の稼働率は前年同月比0.5ポイント低下の81.6%となった。3月後半以降の桜シーズンはインバウンド・国内観光とも活況だった。ビジネス客も引き続き堅調な模様。

2018年3月の館山寺温泉宿泊客数は前年同月比13.0%減の3.9万人となった。前年同月との比較をみると、2017年12月までは大河ドラマ効果が大きく23カ月連続で前年同月を上回っていたが、大河ドラマ放映終了後は反動減が続いている。

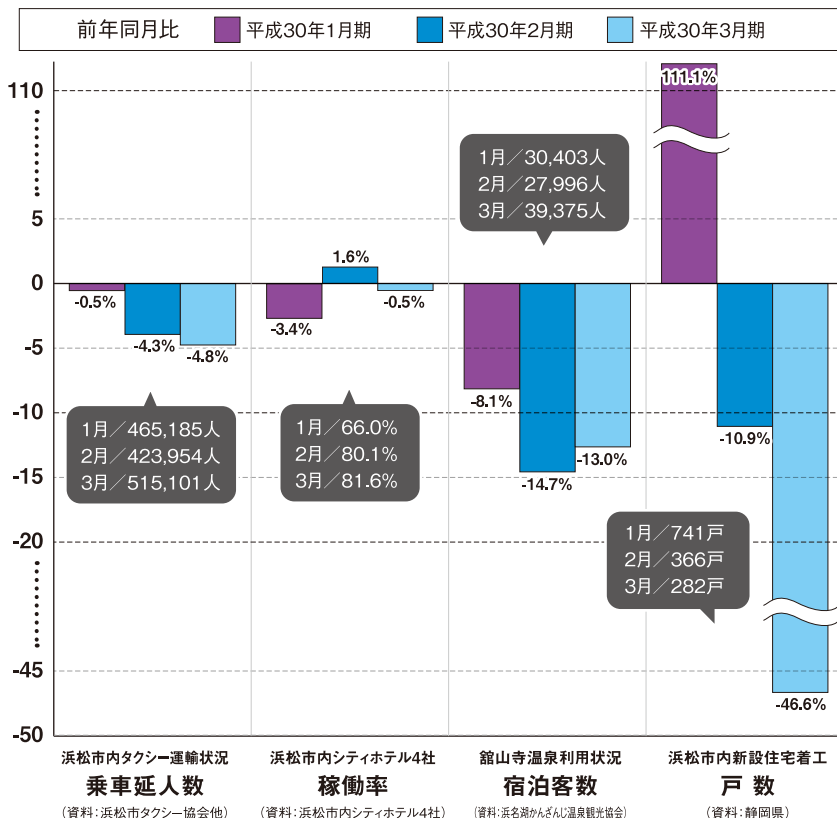
住宅着工



2018年3月における浜松市の住宅新設着工は前年同月比46.6%減の282件となった。前年同月水準を下回るのは2カ月連続で減少幅も大きかった。

内訳をみると、「持家」「貸家」「分譲」とも前年水準を下回り、特に「貸家」「分譲」の落ち込みが大きかった。

年度累計では、2017年度は前年度とほぼ横ばいの着工件数となった。



③ その他〈主要経済指標〉

有効求人



ハローワーク浜松管内における2018年3月の有効求人倍率は前年同月比の0.21ポイント改善の1.67となった。前月比では0.09ポイント低下したが、高水準の倍率が続いており、全国の倍率を上回っている。業種を問わず人手不足感が強くなっており、人手要因による供給制約が目立つようになってきた。

倒産企業



2018年3月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は6件、負債総額は7.3億円となった。17年1月以降の倒産件数は17年8月を除いて1桁台で推移している。

ガソリン価格

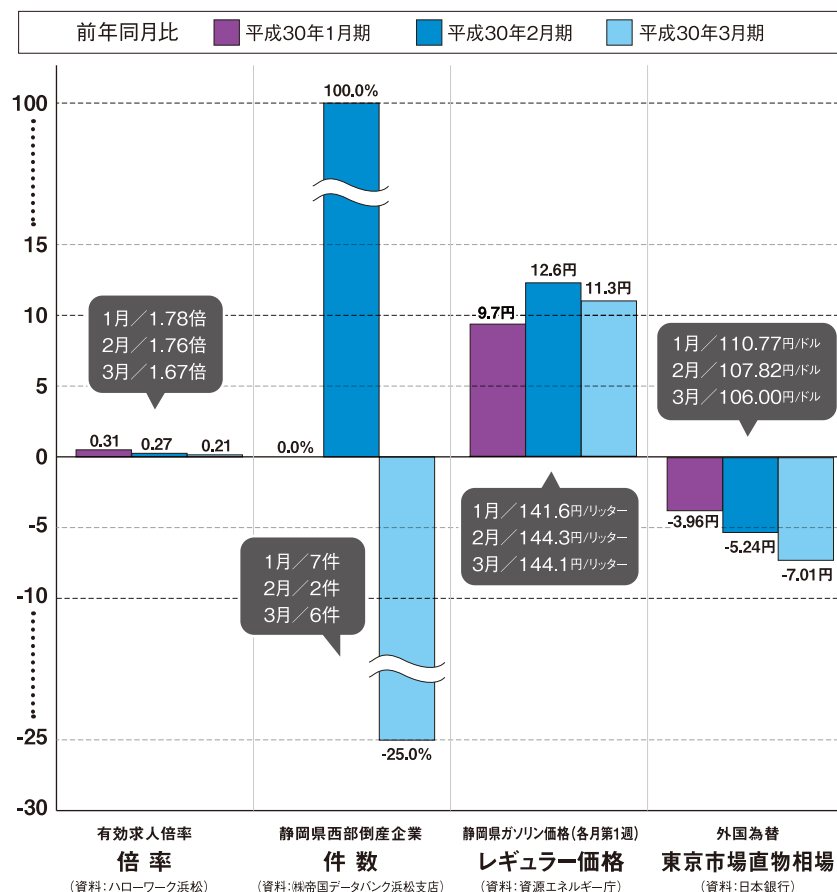


2018年3月第1週のレギュラーガソリン価格は1リットル当たり144.1円となった。前月比ではほぼ横ばいだったが、前年同月比では11.3円上昇している。3月以降もガソリン価格は140円台で推移、足元では若干価格が上昇している。

外国為替



2018年3月の外国為替は1ドル106.00円となった。前年同月と比較すると7.01円の円高となっている。米国の金融政策や保護主義的な通商政策の影響もあり、2017年と比較すると円高方向で推移している。足元では3月時点よりも円安水準で推移している。



浜松地域の経済動向

—平成30年4月を中心に—

緩やかな回復基調が続いている

浜松地域の経済は、景気拡大の勢いはやや弱まってきているものの、引き続き緩やかな回復基調を維持している。

自動車生産は依然高水準の操業を維持しているが、3カ月連続で前年水準を下回った。観光面では大河ドラマ効果の反動が続くが、シティホテルはビジネス客やインバウンド需要が好調だった。人手不足感が引き続き強いことに加え、ガソリン価格も高値圏で推移しており企業収益を圧迫する要因になっている。

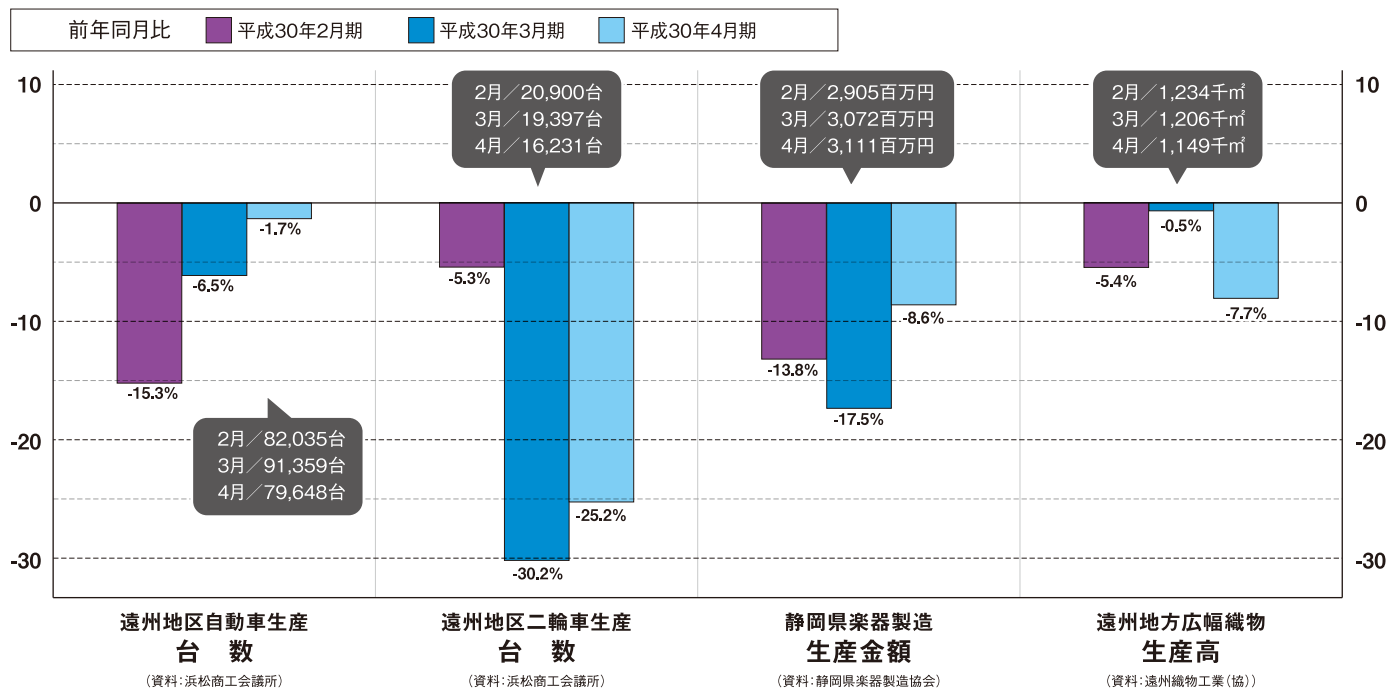
2018.

07

2018年7月発行

発行：浜松商工会議所

① 製造業〈主要経済指標〉



自動車

2018年4月における遠州地区の自動車生産台数は前年同月比1.7%減の7.9万台となった。17年1月以降、前年同月水準を常に上回り、17年は前年比2桁増の月が10カ月あった。増産基調になってから1年が経過したため、前年との対比では3カ月連続でマイナスとなったが、一昨年と比較すると高水準の操業が続いている。普通自動車は前年比プラス、小型自動車と軽自動車は前年比マイナスとなった。

部品メーカーからは、当地域や愛知県からの受注が好調との声に加え、「九州からの受注が良好」との声があった。岡山県や群馬県に本社のあるメーカーからの仕事も好調な模様。

二輪車

2018年4月における二輪車生産台数は前年同月比25.2%減の1.6万台となり、7カ月連続で前年同月水準を下回った。国内向け、輸出とも前年比マイナスとなったが、特に国内向けの落ち込みが大きい。

統計上では、二輪車生産台数は低迷しているが、部品メーカーからは「各メーカーの好調ぶりを受け、売上は順調」といった声や「アメリカなど海外向けが好調」といった明るい声が目立った。

楽器

2018年4月における生産金額は前年同月比8.6%減の31億円となり、4カ月連続で前年同月を下回った。分野別に4月の生産台数をみると、電子・電気ピアノ、管楽器は前年同月比プラス、ピアノ、電子オルガンは前年同月比マイナスとなった。

中小企業からは「為替変動の影響を注視している」「新規分野に参入し、販路拡大を目指したい」といった声がかかった。

繊維

2018年4月の生産量は前年同月比7.7%減の1,149千㎡となり、18カ月連続して前年同月を下回った。

今秋冬向けの衣料素材の受注が低調で工場の稼働率が低下している。このまま端境期に突入の可能性もある。

浜松地域の経済動向

—平成30年5月を中心に—

緩やかな回復基調が続いている

浜松地域の経済は、景気拡大の勢いはやや弱まってきているものの、引き続き緩やかな回復基調を維持している。

自動車生産は4カ月振りに前年水準を上回り、高水準の操業が続いている。

観光面では大河ドラマ効果の反動で館山寺温泉は低迷しているが、シティホテルは好調だった。

人手不足感が引き続き強いことに加え、ガソリン価格も高値圏で推移しており企業収益を圧迫する要因になっている。

足元では米中の貿易戦争が激しさを増しており、景気回復基調に水を差す懸念が生じている。

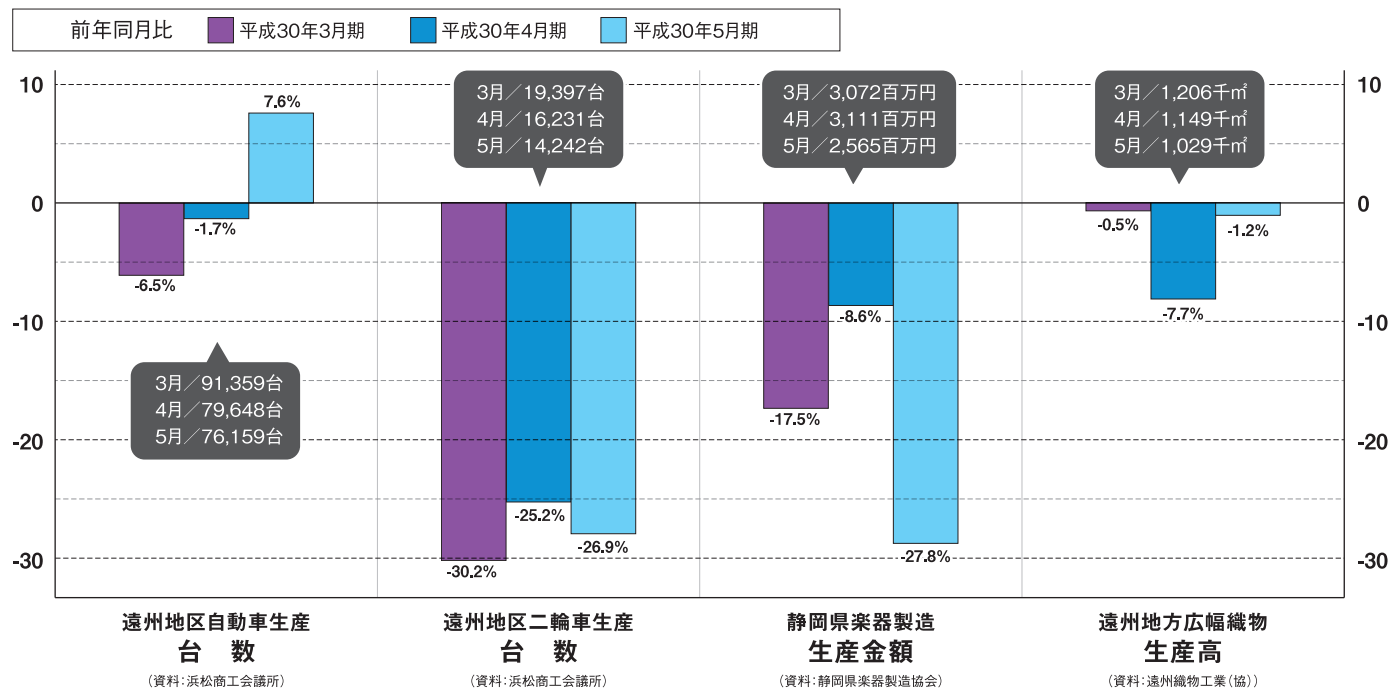
2018.

08

2018年8月発行

発行：浜松商工会議所

① 製造業〈主要経済指標〉



自動車



2018年5月における遠州地区の自動車生産台数は前年同月比7.6%増の7.6万台となった。増産基調になってから1年が経過したため、前年との対比では3カ月連続でマイナスとなったが、4カ月振りに前年水準を上回った。軽自動車と普通自動車は前年比プラス、小型自動車は前年比マイナスとなった。内需・輸出とも前年比プラスとなった。

部品メーカーからは、「業況は好調」「今後の受注増加を見込む」といった声が多い一方、「親会社から減産の計画を受けている」「モデルチェンジ以降、仕事が他社に流れてしまった」という声もきかれた。

二輪車



2018年5月における二輪車生産台数は前年同月比26.9%減の1.4万台となり、8カ月連続で前年同月水準を下回った。国内向け、輸出とも前年比マイナスとなったが、特に国内向けの落ち込みが大きく、7カ月連続で生産台数が1000台を割り込んでいる。

統計上では、二輪車生産台数は低迷しているが、部品メーカーからは「単価の大きな仕事が増えている」といった声や「受注増加に伴い、新規設備を導入した」といった明るい声が目立った。

楽器



2018年5月における生産金額は前年同月比27.8%減の25億円となり、5カ月連続で前年同月を下回った。分野別に5月の生産台数をみると管楽器は前年同月比プラス、ピアノ、電子・電気ピアノ、電子オルガンは前年同月比マイナスとなった。

中小企業からは、「材料が不足している」「人手が不足している」などコスト高要因になる声がきかれた。

繊維



2018年5月の生産量は前年同月比1.2%減の1,029千㎡となり、19カ月連続して前年同月を下回った。

産地全体として設備稼働率が低下、端境期を迎え工場ごとの格差が現われ始めている。

② 非製造業〈主要経済指標〉

運輸



2018年5月におけるタクシー乗車人員は前年同月比1.3%減の48.4万人となった。前年同月水準を下回るのは9カ月連続。需要が低迷していることもあるが、乗務員が不足し稼働が落ち込んでいる影響がでている。

観光



2018年5月の浜松市内シティホテル4社の稼働率は前年同月比7.1ポイント上昇の78.7%となった。ゴールデンウィーク中の稼働は順調だった。インバウンドも好調だった模様。

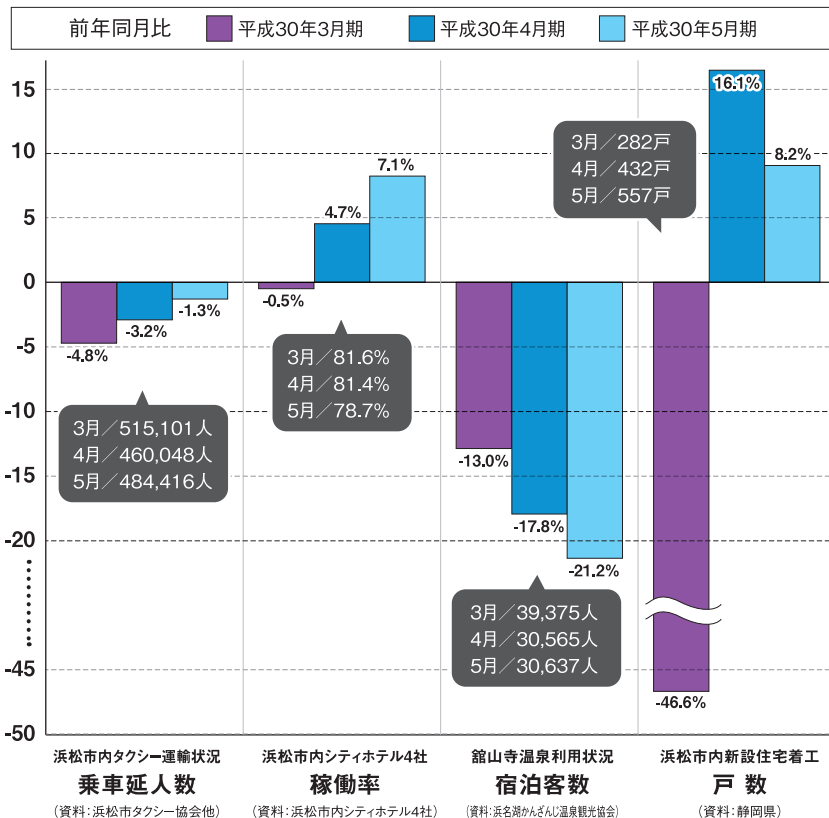
2018年5月の舘山寺温泉宿泊客数は前年同月比21.2%減の3.0万人となった。前年同月との比較をみると、2017年12月までは大河ドラマ効果が大きく23カ月連続で前年同月を上回っていたが、大河ドラマ放映終了後は反動減が続いている。大河ドラマ放映前の2016年5月と比較しても9.0%落ち込んでいる。

住宅着工



2018年5月における浜松市の住宅新設着工は前年同月比8.2%増の557件となった。前年同月水準を上回るのは2カ月連続。

内訳をみると、「貸家」「分譲」は前年水準を上回り、「持家」は前年水準を下回った。「分譲」のうちマンションは0件だった。区別にみると、浜北区が前年同月の58件から142件と2.4倍増加した。



③ その他〈主要経済指標〉

有効求人



ハローワーク浜松管内における2018年5月の有効求人倍率は前年同月比の0.26ポイント改善の1.56となった。前月比では0.03ポイント上昇した。全国(1.60)や静岡県(1.70)の倍率を下回っているが、これは浜松管内の有効求人倍率は季節調整しておらず、例年、4月以降の数カ月間は定年退職者の増加によって有効求人倍率は悪化する傾向がみられるため。業種を問わず人手不足感が強くなっており、人手要因による供給制約が目立つようになってきた。

倒産企業



2018年5月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は5件、負債総額は3.4億円となった。17年1月以降の倒産件数は17年8月を除いて1桁台で推移している。負債金額は6カ月連続で10億円を下回った。

ガソリン価格

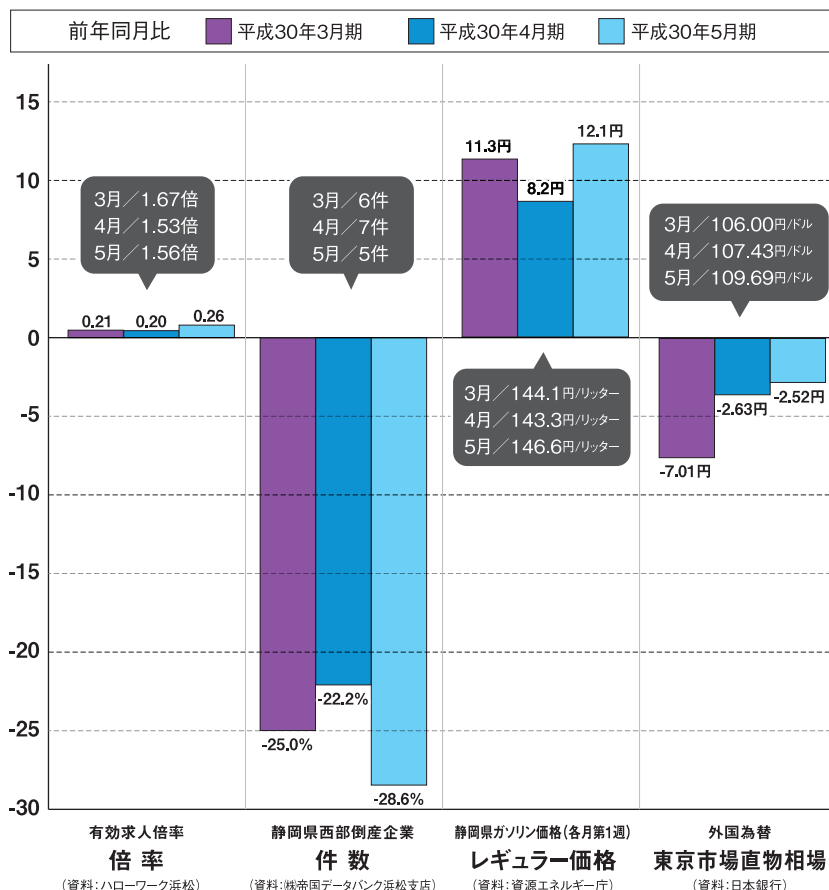


2018年5月第1週のレギュラーガソリン価格は1リットル当たり146.6円となった。前月比で3.3円上昇、前年同月比では12.1円上昇している。年明け以降、ガソリン価格は140円台で推移していたが、米国のイラン核合意離脱表明以降、ガソリン価格が上昇、足元では150円台前半で推移している。

外国為替



2018年5月の外国為替は1ドル109.69円となった。前年同月と比較すると2.52円の円高となっている。米国の金融政策や保護主義的な通商政策の影響もあり、2017年と比較すると円高方向で推移している。足元では2~4月の円高局面は一服、110円前後で推移している。



過去最高水準が続く景況感

2018.
4月～6月期

2018年8月発行

発行
浜松商工会議所

静岡県西部地域の中小企業の業況判断指数※は、1～3月期比
ほぼ横ばいで推移。依然高い水準を維持している。

※業況判断指数……景況判断の基準としてDI(Diffusion Index)による分析で、各質問項目のプラス傾向割合から
マイナス傾向割合を差し引いた数値のこと

	全 体				うち小規模事業者			
	調査数	業 況			調査数	業 況		
		前 期	今 期	見通し		前 期	今 期	見通し
全 体	636				265			
二輪車部品製造	51				21			
自動車部品製造	74				19			
機械部品製造	58				31			
楽器部品製造	18				11			
繊維製造	25				20			
卸売業	75				26			
小売業	60				21			
建設業	70				10			
不動産業	43				31			
飲食・宿泊・レジャー等	19				「平成30年4～6月期中小企業景気動向調査」より			

調査で聞き取ったコメント

※意見の多かったものを抜粋して掲載しています。

- 人手が不足している。(複数の業種)
- 金利低下に伴い不動産の動きが活発である。(不動産業)
- 東京五輪までは受注上昇ムードが高い。(建設業)

天気予報図の見方

DI: 景気動向指数



浜松地域の経済動向

—平成30年7月を中心に—

緩やかな回復基調が続いている

浜松地域の経済は、景気拡大の勢いはやや弱まってきているものの、引き続き緩やかな回復基調を維持している。

人手不足感は引き続き強く、10月には最低賃金が26円引き上げられ858円となるなど人件費も上昇している。

雇用・所得環境の改善は、個人消費にはプラスとなるが、企業にとってはコスト押し上げ要因となる。

足元では米国が中間選挙を控え、保護主義的な動きが顕著となっており、景気回復に水を差す懸念が生じている。

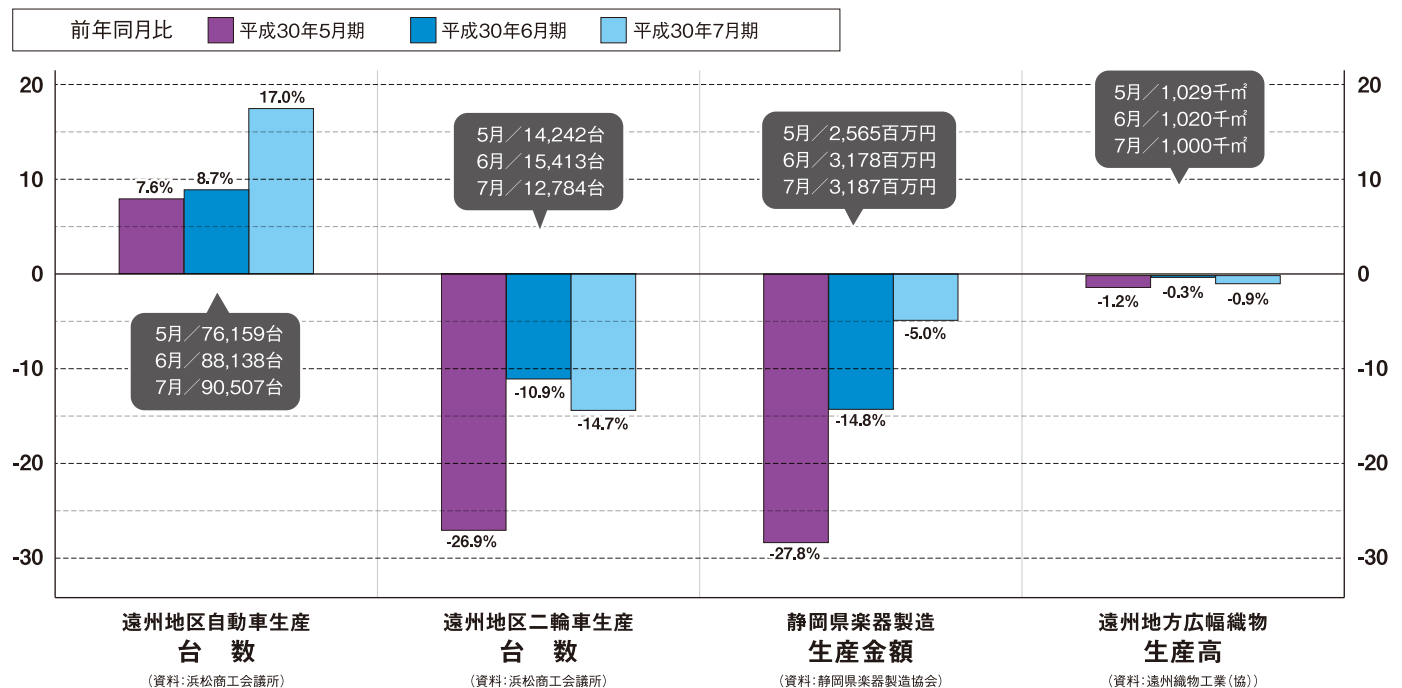
2018.

10

2018年10月発行

発行：浜松商工会議所

① 製造業〈主要経済指標〉



自動車



2018年7月における遠州地区の自動車生産台数は前年同月比17.0%増の9.0万台となった。前年水準を上回るのは3カ月連続で、2桁増となるのは7カ月ぶり。軽自動車、小型自動車、普通自動車とも前年比プラスとなった。国内向けは新型車効果で前年比プラス、輸出は前年比マイナスとなった。

部品関連企業からは、新型車効果で受注好調といった声が複数きかれた。

二輪車



2018年7月における二輪車生産台数は前年同月比14.7%減の1.2万台となり、10カ月連続で前年同月水準を下回った。国内向け、輸出とも前年比マイナスとなったが、特に国内向けの落ち込みが大きく、9カ月連続で生産台数が1000台を割り込んでいる。排気量別にみると、51～125ccと126～250ccは前年比プラス、50cc以下と251cc以上は前年比マイナスとなった。

部品関連会社からは、受注好調といった声がある一方、受注が低迷している企業もあり、企業間で業績に差が出ている模様。

楽器



2018年7月における生産金額は前年同月比5.0%減の31億円となり、7カ月連続で前年同月を下回った。分野別に7月の生産台数をみるとピアノは前年同月比プラス、管楽器はほぼ横ばい、電子・電気ピアノ、電子オルガンは前年同月比マイナスとなった。

生産は低迷しているものの、楽器関連中小企業の中には「引き合い増加」「受注良好」など業績良好な企業もある。

繊維



2018年7月の生産量は前年同月比0.9%減の1,000千㎡となり、21カ月連続して前年同月を下回った。綿織物は前年同月比プラス、合繊織物は前年同月比マイナスとなった。

端境期のため工場稼働率が低下、受注も低調な時期となっている。

② 非製造業〈主要経済指標〉

運輸



2018年7月におけるタクシー乗車人員は前年同月4.2%減の48.0万人となった。前年同月水準を下回るのは11カ月連続。前年と比較して土曜日が1日少なかったことが影響している。乗務員が不足し稼働が落ち込んでいる影響もある。

観光



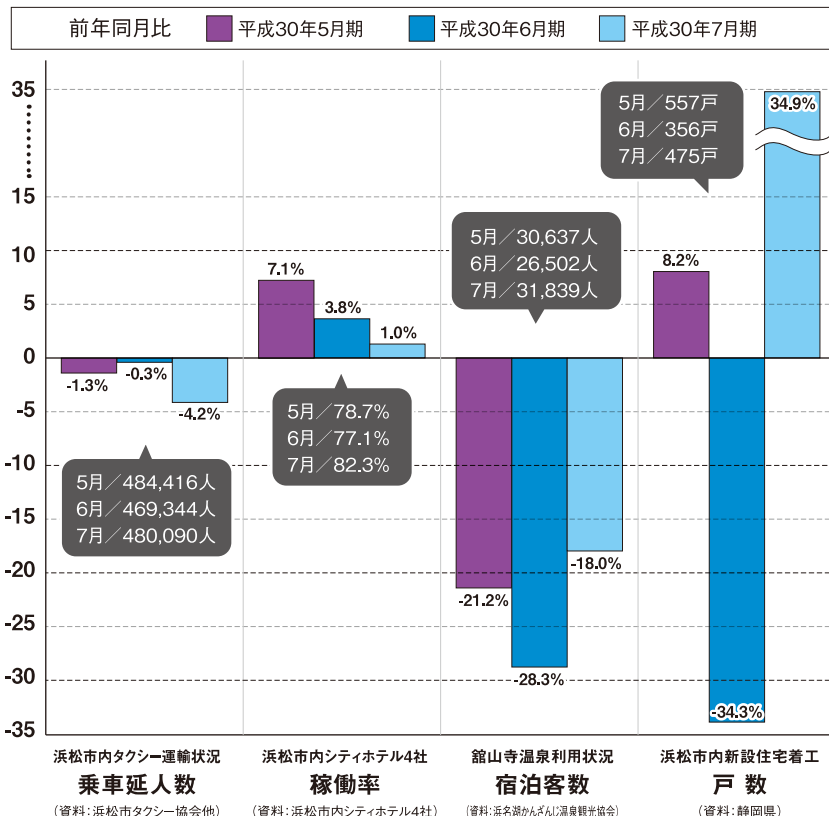
2018年7月の浜松市内シティホテル4社の稼働率は前年同月比1.0ポイント上昇の82.3%となった。インバウンドが好調で全体の稼働増に寄与した。ビジネス客も増加傾向となっている。6年ぶりに開催された「つま恋 apbank fes」に伴う宿泊需要も稼働率を押し上げた。

2018年7月の館山寺温泉宿泊客数は前年同月比18.0%減の3.1万人となった。前年同月との比較をみると、2017年12月までは大河ドラマ効果が大きく23カ月連続で前年同月を上回っていたが、大河ドラマ放映終了後は反動減が続いている。大河ドラマ放映前の2016年7月と比較しても12.1%落ち込んでいる。

住宅着工



2018年7月における浜松市の住宅新設着工は前年同月比34.9%増の475件となった。前年同月水準を上回るのは2カ月ぶり。持家、貸家、分譲のいずれも前年同月比プラスとなり、特に貸家の増加率が105.0%と大きかった。



③ その他〈主要経済指標〉

有効求人



ハローワーク浜松管内における2018年7月の有効求人倍率は前年同月比0.21ポイント改善の1.66となった。前月比では0.07ポイント上昇した。月間有効求職者が前年同月比5.8%減少する一方、月間有効求人は前年同月比8.3%増加しており、人手不足感が極めて強くなっている。

倒産企業



2018年7月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は5件、負債総額は13.7億円となった。17年1月以降の倒産件数は17年8月を除いて1桁台で推移している。負債金額は2カ月連続で10億円を上回った。

ガソリン価格

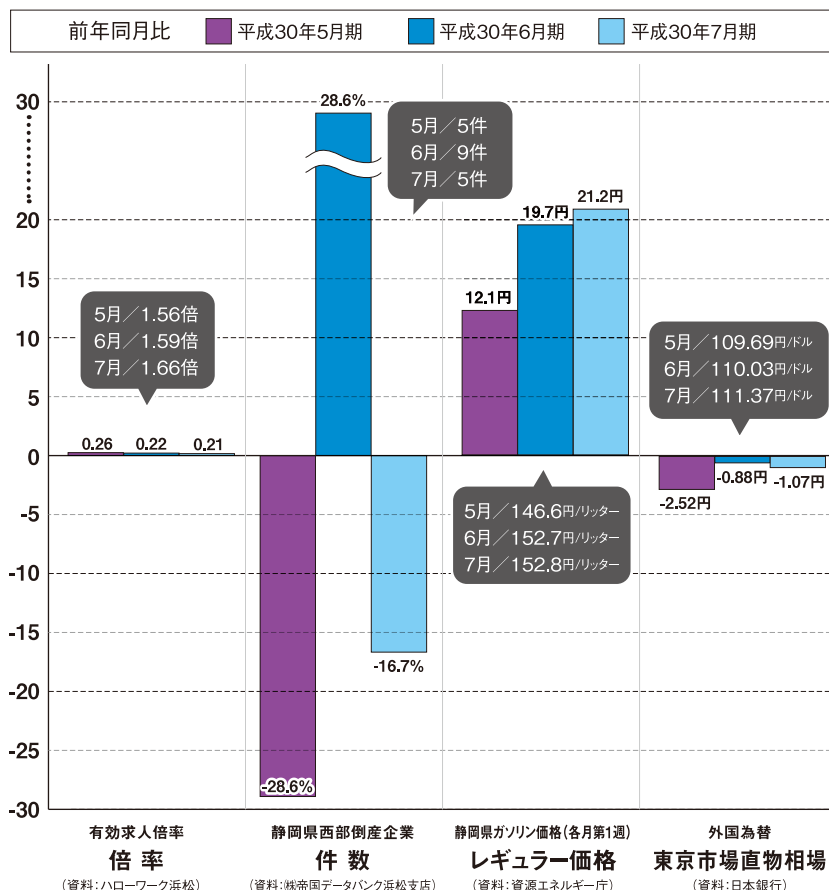


2018年7月第1週のレギュラーガソリン価格は1リットル当たり152.8円となった。前月比ではほぼ横ばい、前年同月比では21.2円上昇している。年明け以降、ガソリン価格は140円台で推移していたが、米国のイラン核合意離脱表明以降、ガソリン価格が上昇している。6月以降は150円台前半で推移しており、上昇一服だが高値圏で推移している。

外国為替



2018年7月の外国為替は1ドル111.37円となった。前年同月と比較すると1.07円の円高となっている。2~4月の円高局面は一服、足元でも110円前後で推移している。米中貿易戦争や自動車関税引き上げ検討など、米国の保護主義的な動きが強まれば、為替相場も大きく振れる懸念がある。



浜松地域の経済動向

—平成30年8月を中心に—

緩やかな回復基調が続いている

浜松地域の経済は、景気拡大の勢いはやや弱まってきているものの、引き続き緩やかな回復基調を維持している。人手不足感は引き続き強い。

最低賃金が引き上げられ人件費も上昇しているが、業種によっては待遇改善しても人が集まらない状況にある。足元では米国が中間選挙を控え、保護主義的な動きが顕著となっており、景気回復に水を差す懸念が生じている。

また、米国の金利上昇が経済に及ぼす影響も注視する必要がある。

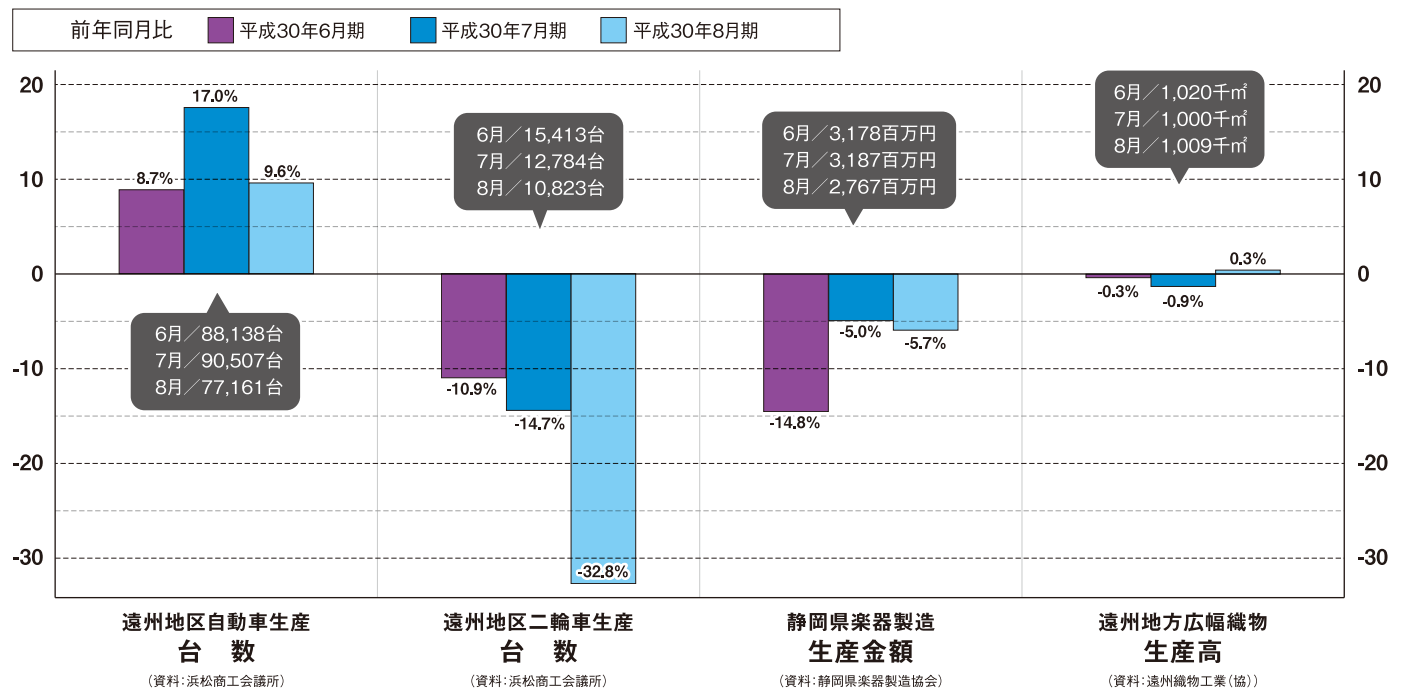
2018.

11

2018年11月発行

発行：浜松商工会議所

① 製造業〈主要経済指標〉



自動車



2018年8月における遠州地区の自動車生産台数は前年同月比9.6%増の7.7万台となった。前年水準を上回るのは4カ月連続。軽自動車、小型自動車、普通自動車とも前年比プラスとなった。国内向けは新型車効果で前年比プラス、輸出は前年比マイナスとなった。

部品関連企業からは、地元企業からの受注好調に加え、県外からの受注も好調との声があった。ただし、「派遣社員の給与が上昇している」「人手が不足している」など人件費高を懸念する声も目立つようになってきた。

二輪車



2018年8月における二輪車生産台数は前年同月比32.8%減の1.0万台となり、11カ月連続で前年同月水準を下回り、6カ月連続で2桁減となった。国内向けは14カ月振りに前年同月水準を上回ったが、主力の輸出が前年同月比38.7%減と大幅に落ち込んだ。排気量別にみると、50cc以下と50cc～125ccは前年比プラス、126cc～250ccと251cc以上は前年比マイナスとなった。

部品関連会社からは、二輪車メーカー向けの船外機部品は好調を継続しているとの声があった。

楽器



2018年8月における生産金額は前年同月比5.7%減の27億円となり、8カ月連続で前年同月を下回った。分野別に8月の生産台数をみるとピアノ、電子オルガン、管楽器は前年同月比プラス、管楽器はほぼ横ばい、電子・電気ピアノは前年同月比マイナスとなった。

中小企業からは、売上安定という声もあるものの、材料費が上昇しているという声も目立った。

繊維



2018年8月の生産量は前年同月比0.3%増の1,009千㎡となり、ほぼ横ばいながら、22カ月振りに前年同月を上回った。綿織物は前年同月比プラス、合繊織物は前年同月比マイナスとなった。

来春夏向けの生産シーズンに向け、一部品種に受注の動きがみられ始めた。

② 非製造業〈主要経済指標〉

運輸



2018年8月におけるタクシー乗車人員は前年同月1.0%増の50.1万人となった。ほぼ横ばいながら前年同月水準を上回るのは12カ月振り。前年と比較して金曜日が1日多かったことがプラスにつながった。ただし、乗務員が不足し稼働が落ち込んでいる状況は続いている。

観光



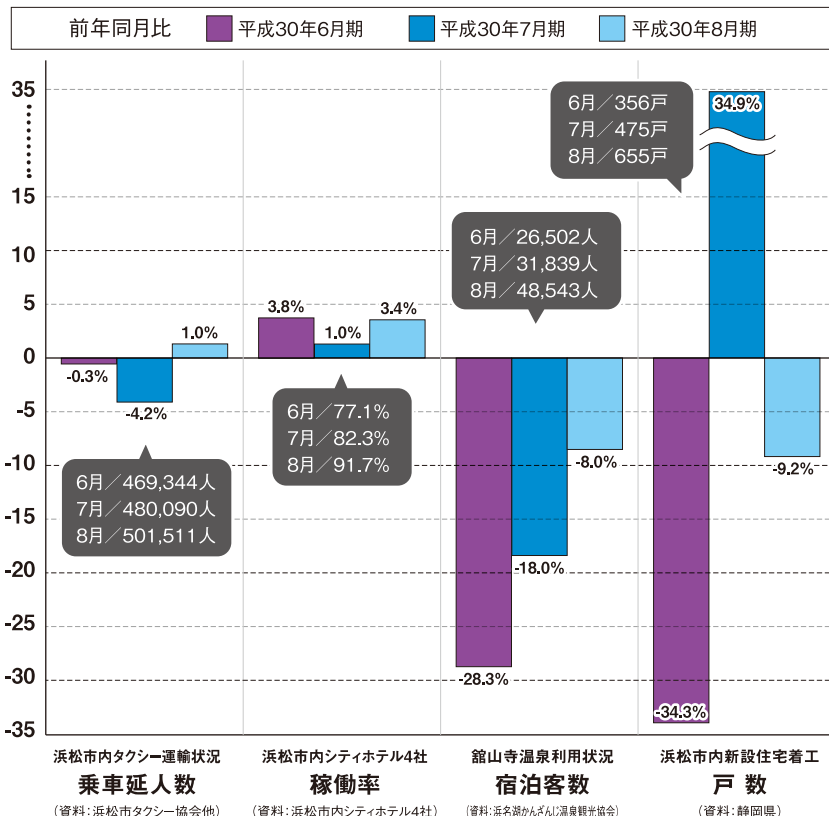
2018年8月の浜松市内シティホテル4社の稼働率は前年同月比3.4ポイント上昇の91.7%となりほぼフル稼働の状況だった。一部ホテルでは学生関係の宿泊が多くあり中心市街地に波及効果が及んだ。インバウンドも好調だった。

2018年8月の館山寺温泉宿泊客数は前年同月比8.0%減の4.8万人となった。前年同月との比較をみると、2017年12月までは大河ドラマ効果が大きく23カ月連続で前年同月を上回っていたが、大河ドラマ放映終了後は反動減が続いている。大河ドラマ放映前の2016年8月と比較しても4.7%落ち込んでいる。

住宅着工



2018年8月における浜松市の住宅新設着工は前年同月比9.2%減の655件となった。前年同月水準を下回るのは2カ月振り。持家と貸家は前年同月比マイナス。分譲はマンションが寄与し前年同月比プラスとなった。



③ その他〈主要経済指標〉

有効求人



ハローワーク浜松管内における2018年8月の有効求人倍率は前年同月比の0.20ポイント改善の1.67となった。前月比では0.01ポイント上昇した。有効求人倍率が上昇することは雇用環境の改善を意味するが、現状では労働需給が行き詰っており、企業側から見て大きな問題となってきた。

倒産企業



2018年8月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は4件、負債総額は3.1億円となった。17年1月以降の倒産件数は17年8月を除いて1桁台で推移している。負債金額は3カ月振りに10億円を下回った。

ガソリン価格

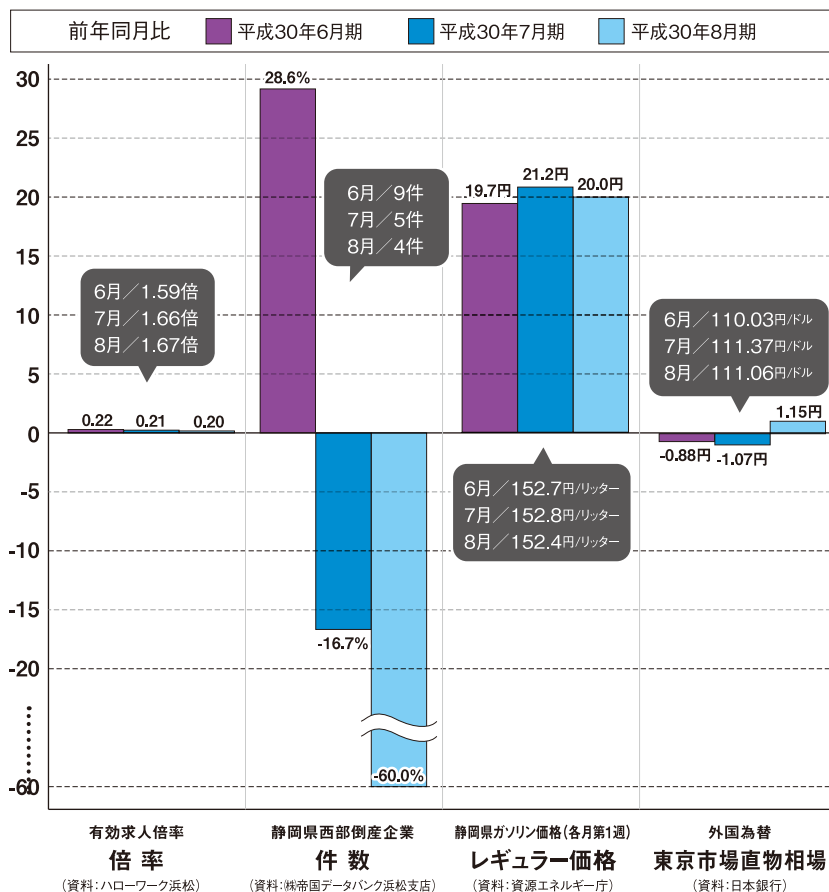


2018年8月第1週のレギュラーガソリン価格は1リットル当たり152.4円となった。前月比ではほぼ横ばい、前年同月比では20.0円上昇している。年明け以降、ガソリン価格は140円台で推移していたが、米国のイラン核合意離脱表明以降、ガソリン価格が上昇している。6月～8月にかけては150円台前半で推移、上昇一服感があったが、足元では再び上昇傾向にある。

外国為替



2018年8月の外国為替は1ドル111.06円となった。前年同月と比較すると1.15円の円安となっている。2～4月の円高局面は一服、足元では8月より円安水準で推移している。米中貿易戦争など米国の保護主義的な動きが強まれば、為替相場も大きく振れる懸念がある。



過去最高水準が続く景況感

静岡県西部地域の中小企業の業況判断指数※は、
4～6月期と比較して若干悪化した、依然高い水準を維持している。

※業況判断指数……景況判断の基準としてDI (Diffusion Index) による分析で、各質問項目のプラス傾向割合から
マイナス傾向割合を差し引いた数値のこと

2018.
7月～9月期

2018年11月発行

発行
浜松商工会議所

	全 体				うち小規模事業者			
	調査数	業 況			調査数	業 況		
		前 期	今 期	見通し		前 期	今 期	見通し
全 体	652				268			
二輪車部品製造	51				21			
自動車部品製造	74				18			
機械部品製造	59				32			
楽器部品製造	18				12			
繊維製造	25				20			
卸売業	82				27			
小売業	70				27			
建設業	73				13			
不動産業	46				32			
飲食・宿泊・レジャー等	14				[平成30年7～9月期中小企業景気動向調査]より			

調査で聞き取ったコメント

※意見の多かったものを抜粋して掲載しています。

- パーツの確保が以前に比べ厳しくなっている。(小売業)
- 新規取引の打診は多数あるが、既存の受注で手一杯である。(自動車部品)
- 商品物件が不足している。(不動産業)

天気予報図の見方

DI: 景気動向指数



浜松地域の経済動向

—2018年9月を中心に—

景気拡大の動きが緩やかになってきている

浜松地域の経済は、景気拡大の勢いはやや弱まってきているものの、引き続き緩やかな回復基調を維持している。

地元上場企業の9月期決算をみると、新興国通貨安で採算が悪化したところもあるものの、事前想定通りの売り上げを確保した企業が目立った。

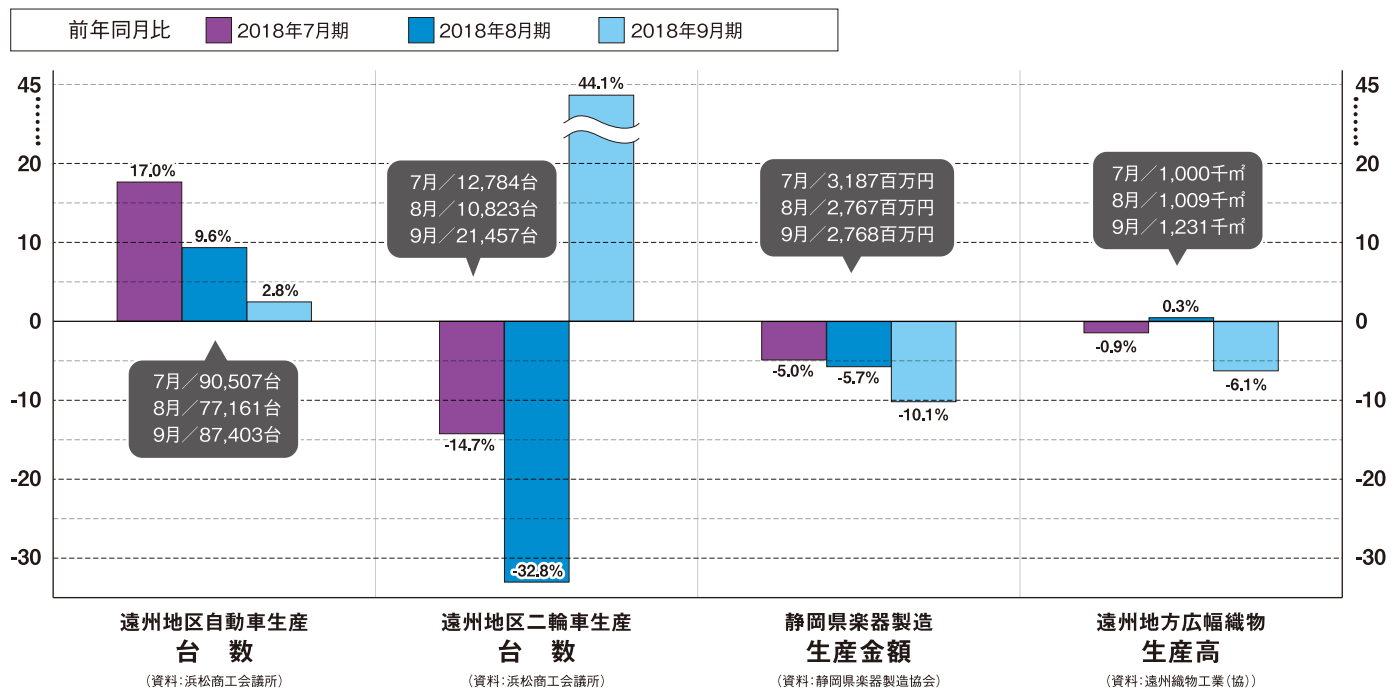
人手不足感は引き続き強く、業種を問わず、人手不足が供給制約要因となっている。

9月～10月にかけてガソリン価格が上昇した。足元では原油価格が下落しており、ガソリン価格も下落する可能性が高いが、高値圏であることに変わりはなく、収益圧迫要因となっている。

2018.
12

2018年12月発行
発行：浜松商工会議所

① 製造業〈主要経済指標〉



自動車



2018年9月における遠州地区の自動車生産台数は前年同月比2.8%増の8.7万台となった。前年水準を上回るのは5カ月連続。軽自動車、普通自動車は前年比プラス、小型自動車は前年比マイナスとなった。国内向けは新型車効果で前年比プラス、輸出は前年比マイナスとなった。

2018年4～9月の生産台数は、好調な新型車が寄与し、前年同期比3.3万台増の49.9万台となった。輸出向けは減少したが、国内向けは増加となった。

二輪車



2018年9月における二輪車生産台数は前年同月比44.1%増の2.1万台となり、12カ月振りに前年同月を上回った。月産2万台を超えるのは7カ月振り。国内向け、輸出とも前年同月を上回った。排気量別でみても、全てのクラスで前年同月を上回った。

2018年4～9月の生産台数は、9月を除く全ての月で前年同月を下回ったため、前年同期との比較では1.3万台のマイナスとなった。

楽器



2018年9月における生産金額は前年同月比10.1%減の27億円となり、9カ月連続で前年同月を下回った。分野別に9月の生産台数を見る電子オルガンは前年同月比プラス、ピアノ、電子・電気ピアノ、管楽器は前年同月比マイナスとなった。

減産基調が続いていたが、中小企業からは「年末に向けた生産の増加が期待できる」との声もあった。

繊維



2018年9月の生産量は前年同月比6.1%減の1,231千㎡となり、2カ月振りに前年同月を下回った。綿織物、合繊織物とも前年同月比マイナスとなった。

来春夏向けの生産が本格化し、設備稼働率も高まってきている。ただし、前年に比べると出だしの受注がやや鈍い様子となっている。

② 非製造業〈主要経済指標〉

運輸



2018年9月におけるタクシー乗車人員は前年同月2.0%減の45.3万人となった。前年同月水準を下回るのは2カ月振り。前年と比較して金曜日が1日少なかったことがマイナス要因となった。市内各社とも乗務員不足に苦慮しており、前年と比較すると約5%乗務員が減少している。

観光



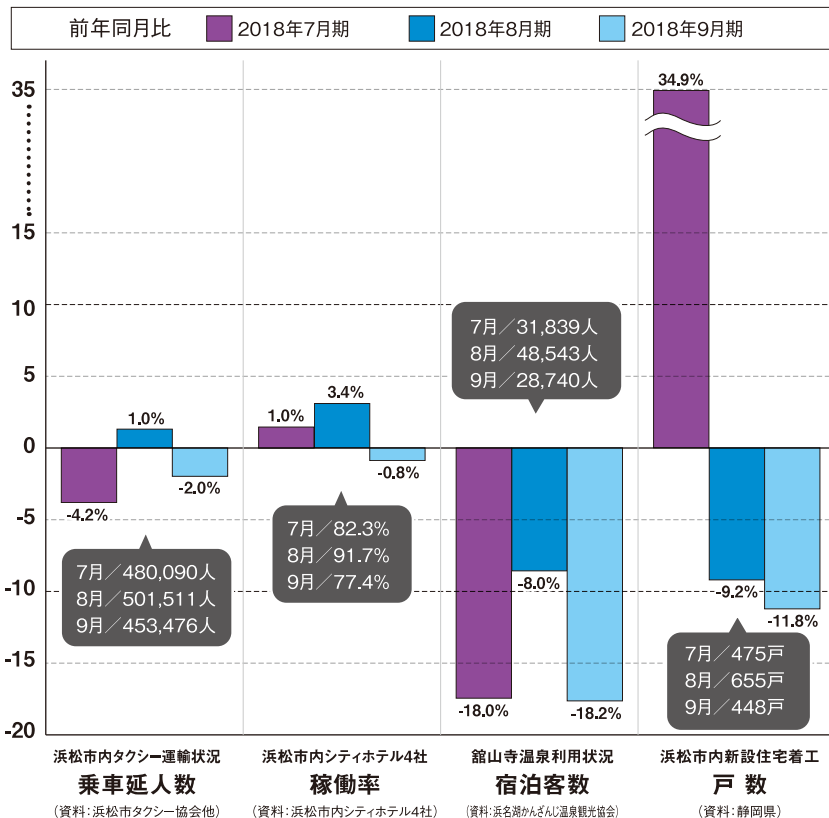
2018年9月の浜松市内シティホテル4社の稼働率は前年同月比0.8ポイント下降の77.4%となり、6カ月振りに前年同月水準を下回った。インバウンドは、台風の影響でフライトスケジュールの変更などキャンセルが目立った。ビジネス客は順調だったものの、こちらも台風の影響でキャンセルがあった。

2018年9月の館山寺温泉宿泊客数は前年同月比18.2%減の2.8万人となった。前年同月との比較をみると、2017年12月までは大河ドラマ効果が大きく23カ月連続で前年同月を上回っていたが、大河ドラマ放映終了後は反動減が続いている。大河ドラマ放映前の2016年9月と比較しても7.6%落ち込んでいる。

住宅着工



2018年9月における浜松市の住宅新設着工は前年同月比11.8%減の448件となった。貸家と分譲住宅の減少が大きかった。2018年4～9月の着工件数は前年同月比87件減の2,923件となり、わずかながら前年同期を下回った。



③ その他〈主要経済指標〉

有効求人



ハローワーク浜松管内における2018年9月の有効求人倍率は前年同月比の0.18ポイント上昇の1.71となった。前月比では0.04ポイント上昇した。国(1.64)、静岡県(1.70)を上回っている。有効求人倍率が上昇することは雇用環境の改善を意味するが、現状では労働需給が行き詰まっており、企業側から見て大きな問題となってきている。

倒産企業



2018年9月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は4件、負債総額は0.8億円となった。17年1月以降の倒産件数は17年9月を除いて1桁台で推移している。負債金額は19カ月振りに1億円を下回った。

ガソリン価格

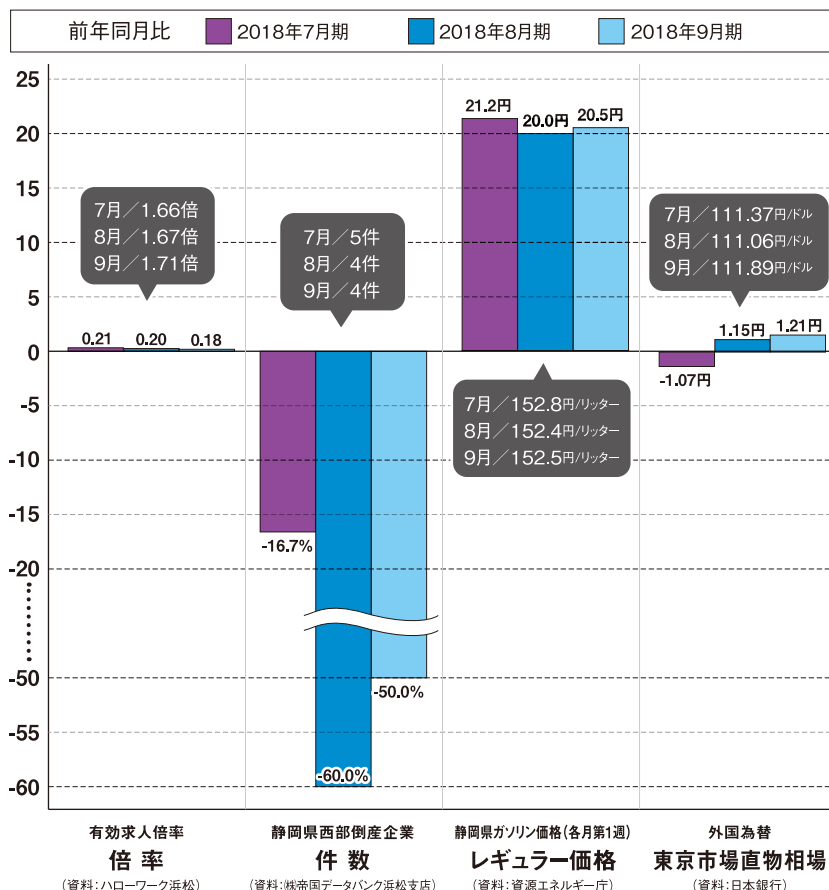


2018年9月第1週のレギュラーガソリン価格は1リットル当たり152.5円となった。前月比ではほぼ横ばい、前年同月比では20.5円上昇した。6月～9月にかけては150円前半半で推移していたが、10月以降は約160円まで上昇した。ただし、足元の原油価格は下落しており、ガソリン価格も上昇一服となる可能性が高い。

外国為替



2018年9月の外国為替は1ドル111.89円となった。前年同月と比較すると1.21円の円安となっている。2～4月の円高局面は一服、足元では9月より円安水準で推移している。ドル高要因で緩やかな円安基調となっているため、新興国通貨との関係では円高(新興国通貨安)となっているケースが多い。



浜松地域の経済動向

—2018年10月を中心に—

景気拡大の動きが弱まってきている

浜松地域の経済は、引き続き緩やかな回復基調を維持しているものの、景気拡大の勢いは弱まってきている。

台風24号に伴う大規模停電の影響で経済活動がストップした時期もあったが、

10月を通して見れば、前年同月水準を上回る指標が目立った。

人手不足感は引き続き強く、業種を問わず、人手不足が供給制約要因となっている。

ガソリン価格は足元では下落しているものの、10月は高値圏で推移し収益圧迫要因となった。

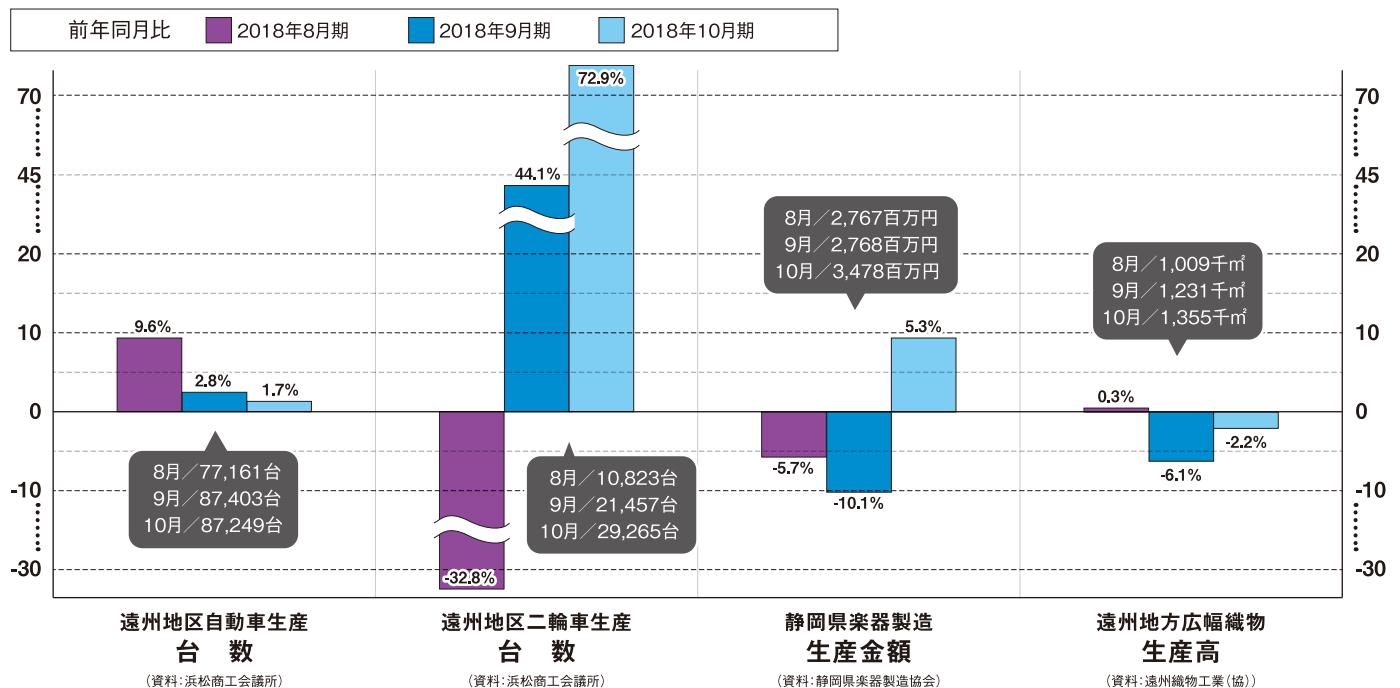
2019.

1

2019年1月発行

発行：浜松商工会議所

① 製造業〈主要経済指標〉



自動車



2018年10月における遠州地区の自動車生産台数は前年同月比1.7%増の8.7万台となった。前年水準を上回るのは6カ月連続。月初は台風に伴う停電の影響もあったが、前年水準を上回った。軽自動車、普通自動車は前年比プラス、小型自動車は前年比マイナスとなった。国内向けは新型車効果で前年比9.3%増、輸出は前年比20.3%減となった。

売上・受注は堅調なもの、人手確保に苦慮している中小企業が多い。

二輪車



2018年10月における二輪車生産台数は前年同月比72.9%増の2.9万台となった。8月まで11カ月連続で前年同月水準を下回っていたが、9月以降スズキ浜松工場(都田地区)での生産が本格化し二輪車生産は増加に転じている。国内向け、輸出とも前年同月を上回った。排気量別で見ても、全てのクラスで前年同月を上回った。

停電の影響について、生産活動への影響は数日間で収まったものの、中小企業からは「屋根等の修繕が遅れている」との声もあった。

楽器



2018年10月における生産金額は前年同月比5.3%増の34億円となり、10カ月振りに前年同月を上回った。分野別に10月の生産台数をみるとピアノ、電子オルガン、管楽器は前年同月比プラス、電子・電気ピアノは前年同月比マイナスとなった。

中小企業からは「台風で工場屋根の損壊があった」「停電からの挽回生産で残業が多くなった」といった声が聞かれた。

繊維



2018年10月の生産量は前年同月比2.2%減の1,355千㎡となり、2カ月連続で前年同月を下回った。綿織物、合繊織物は前年同月比プラスだったが、スフ織物とその他織物がマイナスとなった。

来春夏向けの生産が本格化し、産地内の織物工場の稼働率は100%に近い状態となっている。ただし、工場の減少により生産能力は縮小している。

② 非製造業〈主要経済指標〉

運輸



2018年10月におけるタクシー乗車人員は前年同月比5.1%減の457,263人となった。前年同月水準を下回るのは2カ月連続。市内各社、乗務員不足のため供給力が低下している模様。

観光



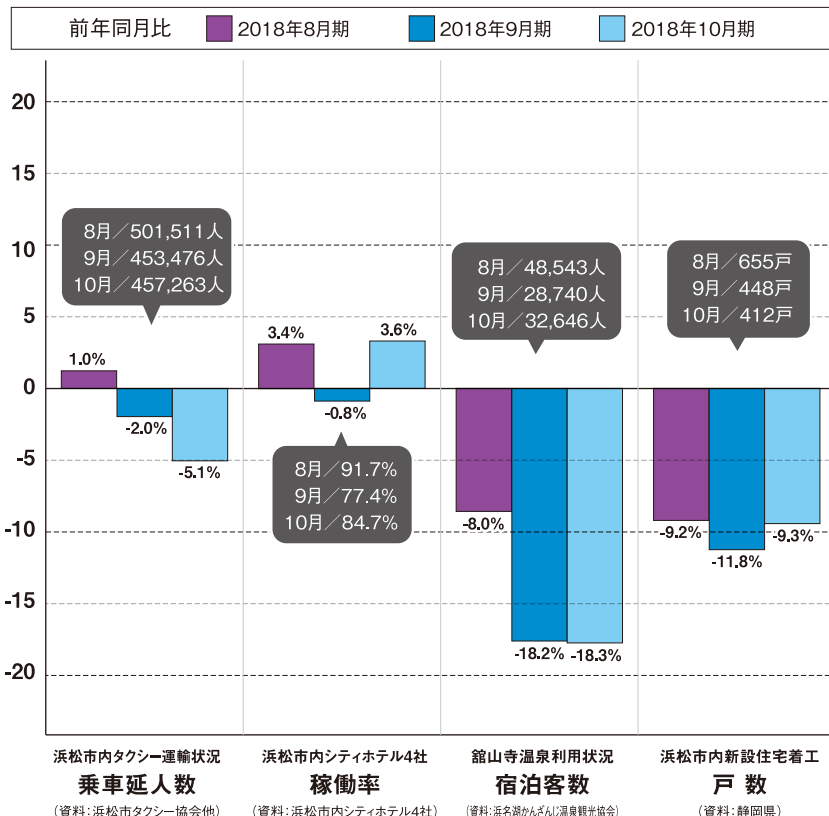
2018年10月の浜松市内シティホテル4社の稼働率は前年同月比3.6ポイント上昇の84.7%となり、2カ月振りに前年同月水準を上回った。10月は台風の影響があったものの、インバウンド、ビジネス需要とも好調だった。週末の観光需要も堅調だった。

2018年10月の館山寺温泉宿泊客数は前年同月比18.3%減の3,240人となった。前年同月との比較をみると、2017年12月までは大河ドラマ効果が大きく23カ月連続で前年同月を上回っていたが、大河ドラマ放映終了後は反動減が続いている。大河ドラマ放映前の2016年10月と比較しても13.5%落ち込んでいる。

住宅着工



2018年10月における浜松市の住宅新設着工は前年同月比9.3%減の412件となった。分譲は前年同月比プラスとなったものの、持家と貸家がマイナスとなった。特に貸家は前年同月比33.6%減と大幅に落ち込んだ。



③ その他〈主要経済指標〉

有効求人



ハローワーク浜松管内における2018年10月の有効求人倍率は前年同月比の0.16ポイント上昇の1.71となった。前月比では横ばいだった。国(1.62)、静岡県(1.64)を上回っている。産業別新規求人数をみると、製造業は前年同月比8.4%増の1,244人、医療・福祉は5.5%増の1,358人となった。

倒産企業



2018年10月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は5件、負債総額は8.6億円となった。17年1月以降の倒産件数は17年10月を除いて1桁台で推移している。負債金額は4カ月振りに前年同月水準を上回った。

ガソリン価格

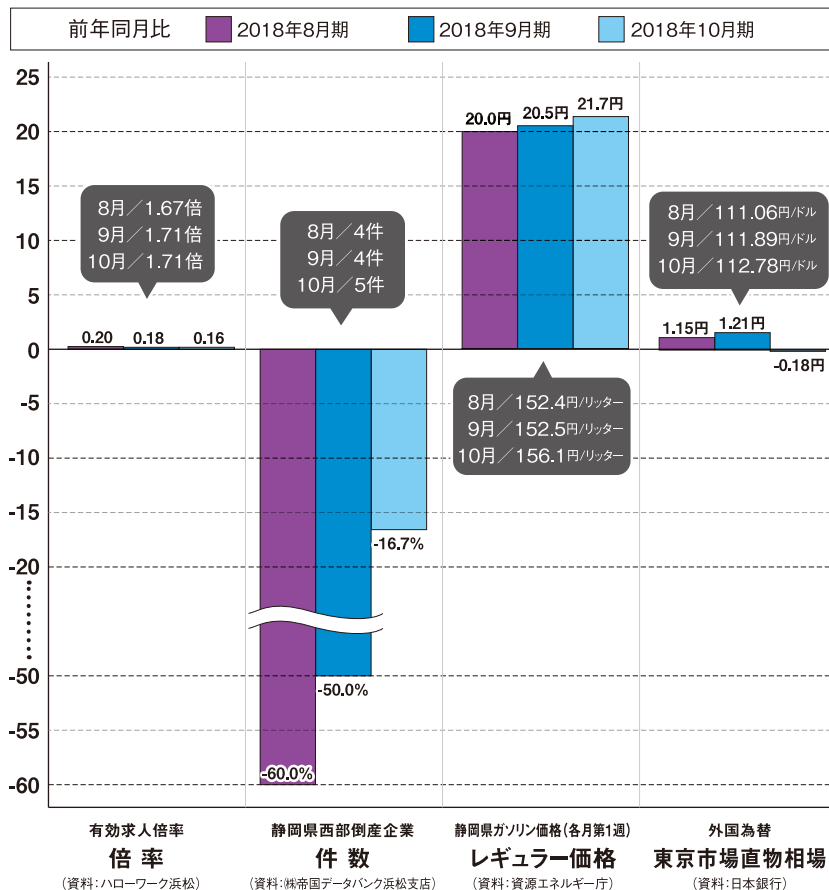


2018年10月第1週のレギュラーガソリン価格は1リットル当たり156.1円となった。前月比では3.6円、前年同月比では21.7円上昇した。6月～10月にかけては150円台前半で推移していたが、10月に入り約160円まで上昇した。ただし、10月下旬をピークに足元ではガソリン価格は下落している。

外国為替



2018年10月の外国為替は1ドル112.78円となった。前年同月と比較すると0.18円の円高となっている。秋口以降、日本を含む主要国では株価の変動が大きくなっているが、ドル円レートは比較的安定して推移している。



浜松地域の経済動向

—2018年12月を中心に—

足元は堅調なもの、景気減速懸念もでてきている

浜松地域の経済は、長らく回復基調が続いていたが、景気拡大の勢いは弱まってきている。

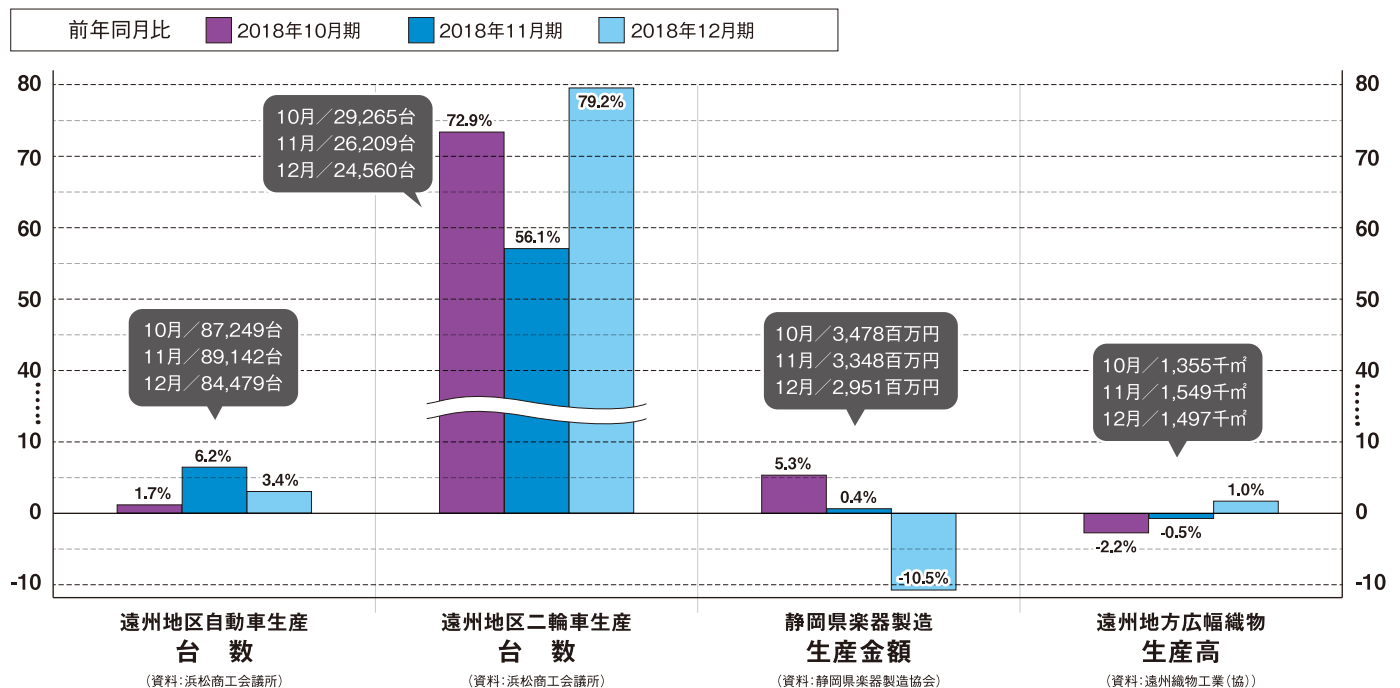
秋口の懸念材料だったガソリン価格は下落に転じているが、人手不足感は引き続き強い。地元大手企業の10～12月決算をみると、売上は好調なもの、新興国通貨安等の影響により業績改善ペースに一服感が漂い始めている。

2019.

3

2019年3月発行
発行：浜松商工会議所

① 製造業〈主要経済指標〉



自動車



2018年12月における遠州地区の自動車生産台数は前年同月比3.4%増の8.4万台となった。前年水準を上回るのは8カ月連続。軽自動車、小型四輪車は前年比プラス、普通四輪車は前年比マイナスとなった。国内向けは前年比1.1%増、輸出は前年比15.4%増となった。輸出が前年水準を上回るのは7カ月振り。

2018年の年間生産台数は前年比2.3万台増の101.3万台となり、3年振りに100万台を突破した。国内向けは前年比プラス、輸出は前年比マイナスとなった。

二輪車



2018年12月における二輪車生産台数は前年同月比79.2%増の2.4万台となった。8月まで11カ月連続で前年同月水準を下回っていたが、9月以降スズキ浜松工場(都田地区)での生産が本格化し二輪車生産は増加に転じている。国内向け、輸出とも前年同月を上回った。排气量別でみても、全てのクラスで前年同月を上回った。

2018年の年間生産台数は前年比1.6%増の22.4万台となった。スズキ浜松工場の生産開始効果もあり、2年振りに前年水準を上回った。

楽器



2018年12月における生産金額は前年同月比10.5%減の29億円となり、3カ月振りに前年比マイナスとなった。分野別に12月の生産台数をみると、ピアノ、電子・電気ピアノ、電子オルガン、管楽器のいずれも前年比マイナスとなった。

2018年の年間生産金額は前年比10.7%減の358億円となり、4年連続で前年水準を下回った。

繊維



2018年12月の生産量は前年同月比1.0%増の1,497千㎡となった。前年比プラスとなるのは4カ月振り。綿織物、合繊織物は前年同月比プラス、スフ織物とその他織物は前年比マイナスとなった。

来春夏向け素材の生産が終盤を迎え、稼働率も若干低下している。

2018年の年間生産量は前年比2.4%減の14,702千㎡となった。

② 非製造業〈主要経済指標〉

運輸



2018年12月におけるタクシー乗車人員は前年比4.7%減の53.9万人となった。前年水準を下回るのは4カ月連続。前年より繁忙日が1日少なかったことが響いた。市内各社、乗務員不足及び高齢化が深刻化、供給力が低下している。

観光



2018年12月の浜松市内シティホテル4社の稼働率は前年比1.9ポイント低下の69.5%となり、3カ月振りに前年水準を下回った。忘年会シーズンのビジネス需要と冬休みの個人客は前年並みにあったが、インバウンド需要が伸びず、秋口より稼働率は低迷した。

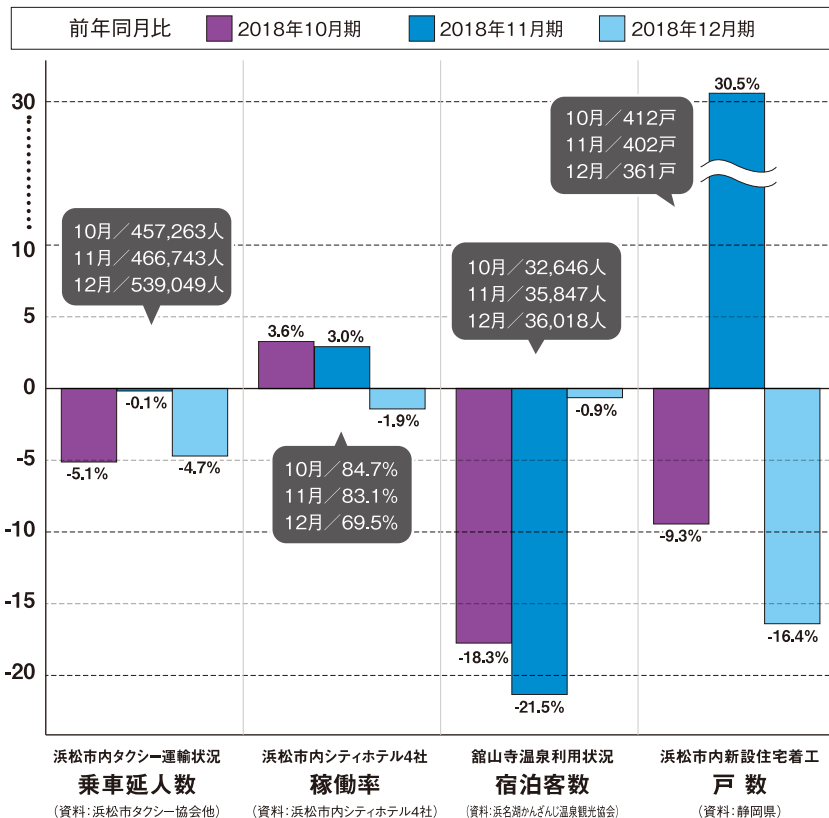
2018年12月の館山寺温泉宿泊客数は前年同月比0.9%減の3.6万人となった。大河ドラマ放映終了に伴う反動減が続いていたが、下げ止まりつつある。

住宅着工



2018年12月における浜松市の住宅新設着工は前年比16.4%減の361件となった。貸家と分譲住宅の減少が大きかった。

2018年の年間着工件数では前年比7件減の5,487件となり、わずかながら前年を下回った。



③ その他〈主要経済指標〉

有効求人



ハローワーク浜松管内における2018年12月の有効求人倍率は前年同月比の0.10ポイント上昇の1.86となった。前月比では0.09ポイント上昇した。国(1.63)、静岡県(1.65)を上回っている。有効求人倍率が上昇することは本来ならば雇用環境が改善していることを意味するが、ここ数年は人手不足の弊害の方が目立つようになってきている。

倒産企業



2018年12月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は5件、負債総額は10.7億円となった。負債金額は8.5億円の自己破産申請があったため、2カ月連続で10億円を超えた。2018年は件数、負債総額とも前年よりも減少した。

ガソリン価格



2018年12月第1週のレギュラーガソリン価格は1リットル当たり151.4円となった。前年比では10.0円上昇しているものの、前月比では8.5円下落した。9～10月にかけてガソリン価格は大幅に上昇したが、10月下旬を山として下落に転じており、足元では140円台前半で推移している。

外国為替



2018年12月の外国為替は1ドル112.45円となった。前年同月と比較すると0.52円の円高となっている。2018年のドル円相場は変動幅が小さく推移していたが、2019年に入り一時1ドル104円台まで進むなど、12月時点より円高で推移している。

